



編集・発行 公益社団法人
日本プロテニス協会
広報委員会

〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35
御殿山トラストタワー1階
TEL:03(5791)1965 FAX:03(5791)1966
E-mail:kyokai@jpta.or.jp
URL:http://www.jpta.or.jp



2011年度 JPTAコンベンション 2012.2.8

JPTA news

vol.197 2012年7月号

CONTENTS

- ◆平成24年度 総会報告 1
- ◆「時の人」竹内 映二氏 2~4
- ◆指導技術 指導編 『選手育成』 5~6
- ◆指導技術 技術論『ボレー編』 7~15
- ◆2011年度 コンベンション開催報告 16
- ◆基調講演概略
「なでしこジャパン」の成長戦略」 17
- ◆第2回「ブラッシュアップ勉強会」報告書 18~20
- ◆準会員募集「ワークショップ」開催報告 21
- ◆2011年度 NGT全国大会報告書 22
- ◆2011年度 NGT大会スケジュール 23
- ◆JPTA海外遠征 in ロサンゼルス報告書 24
- ◆プロプレーヤーインタビュー 25
- ◆能登国際女子オープンテニス 26~27
- ◆会員人物紹介 28~29
- ◆地区便り（神奈川地区）/
地区長会議報告 /
東海地区地区会・安全管理講習会案内 30
- ◆資格認定講習会 / プロテスト開催日程
プロテスト委員会UPテスト合格者 31
- ◆事務局紹介 32
- ◆会員サービス委員会よりお知らせ 33
- ◆事務局たより / 新入会員挨拶 34
- ◆MIXI登録・申請について 35
- ◆公認推薦賛助企業 / 編集後記 36

平成 24 年度 総会報告

平成24年6月18日（月）、協会会議室にて『平成24年度社員総会』が予定通り開催されました。

総会は会員総数1,522名のうち847名（委任状出席含む）の出席により適法に成立し、定款の規定に基づき佐藤直子理事長が議長となり、挨拶、議事録署名者の選出後、議案の審議に入りました。

第1号議案の「平成23年度事業報告および決算報告」について、総会資料に基づいて、説明がなされ、鈴木監事より監査の結果、当協会の会計及び業務内容は正しくなされていると報告があり、質疑応答後、可決承認されました。

続いて、第2号議案の「平成24年度事業計画及び予算案」について、総会資料に基づいて説明がなされ、補足として

- 1) 本年11月12日、御殿山ガーデンホテルラフォーレ東京にてコンベンションの開催が予定されており、正式な詳細が決まり次第会員の皆様へご案内する予定であること。
- 2) 公認企業のグローブライド株式会社様とのシューズ契約が終了であること。
- 3) 活動休止中の安全管理講習会を再開し、各種セミナーやワークショップ等と連携し実施する予定であること。

以上についての追加説明がなされ、質疑応答後、可決承認されました。

「時の人」

「時の人」では、テニス界のみならず、様々な分野で活躍されている方にお話を伺い、視野を広げてテニス界を盛り上げるヒントをみつけていきたいと思います。第4回目は、日本代表監督を8年間務め勤め、日本チームを27年ぶりにワールドグループ復帰へと導いた竹内映二さんです。2005年から日本代表監督として選手を支えてきた竹内さんに、ご多忙中にもかかわらず、デ杯戦を終えた胸の内を語っていただきました。

前デビスカップ日本代表監督

竹内 映二 氏

Eiji Takeuchi



デ杯戦を終えて 日の丸を胸に

選手は、けして駒ではない。けして駒ではない人間である選手を扱っているから結果は、奇想天外、波乱万丈、誰も知る由もなく必ずしも思ったようには導けない。結果は、時には悲しく辛いものである一方で、楽しく美しく感動的である。個性が創り出す限りない多様性がそこに生まれる。私のコーチングは、選手を大切にその選手の人生を大切に、可能性を信じることから始まった。

すべてが単純なことからだったかもしれない。現役時代は、天狗になり、知ろうとしなかった自分がいた。また、知らないがゆえにいろいろなことに悩み苦しんだりした。コーチになってから「これではいけない」と思いがむしゃらに勉強を繰り返した。JTAをしばらく離れ、自分自身でアカデミーを開校した。そこで学んだことが私の財産になった。結果、いろいろなことが頭の中でひとつになるようになってきた。

“そうなんだ。すべてはもっと単純なことなのだ。”



信じれば、ひとには（自分には）不可能はない、どれだけそう思い続けられるかだけだったような気がする。

伝統の継承と 更なる発展に向けての努力

人生は短い。特に、我々のようなスポーツマンにとって、人生の旬はびっくりするほど短い。過去を振り返って先人の努力を見るときに、私の人生の短さを逆に感じさせられる。先人たちは、私たちが生きる現在よりも短い人生の中に生き、そして彼ら、彼女らが今の時代よりももっと短命なスポーツ人生の中に生きたことや、「あの時代、この選手たちはどんな思いでコートに立ったのか」と彼ら、彼女たちの思いを考えると、自分が何もやれていないことに気が付くと同時に、生きている間と言うのははっきりしていると如何に短くあつと言う間に過去になってしまうのが分かる。日本テニス界の長い伝統の中で、我々はほんの一瞬しか、選手と接することができないのかもしれない。

しかしながら、その短い時間すらも日本テニス界のアーキ（軌道）の中にあり、その短い時間を前へ進めるか否かは我々の双肩にかかっていて、全体の進歩に大に関わってくるから背筋をピンとしなければならぬ。



また、先人たちの偉業を尊重し伝統を継承するのは大切だが、それだけではいけない。変えるべきものは思い切って変えなくてはならない。驚異的なスピードで指導法や科学は、常に進歩し、我々が現在行っていることさえ否定されることがあるからだ。

自分だけがよければと言う考えは捨てた方がよい。無私の精神を忘れてはならない。なぜなら、我々指導者は、選手たちの未来に触れているのである。

チームワーク

私の仕事に関わってくれているスタッフを私は心底信じるように心がけている。そしてスタッフには、自由に振る舞える空間を与えているつもりである。もし、スタッフの誰かが間違った行動を起こした場合は、選手の前では怒らないようにしている。アドバイスはいつもそのスタッフを呼んで選手の見えないところ、あるいはスタッフに近づいて耳元で少しアドバイスするくらいで選手の前で決して怒鳴ったりはしないように心がけている。また、スタッフを選手の前で呼び捨てにはしない。ニックネームで呼ぶことはあっても、名前を呼ぶ場合は必ず「…くん」、「…コーチ」と呼ぶようにしている。それは、私自身がそれぞれのスタッフを尊重しているのと、若い選手にも私同様にそれぞれのスタッフを尊重してほしいからである。

私たちのスタッフの中には私を含めて誰ひとりワールドグループを経験した者はいない。

経験していない世界と言うものは、果てしなく遠く、素晴らしい憧れのようなものに見えたり感じたりするものである。またその空気感は、まるで異国の香水をかぐようで高貴なもの、神聖なものにさえ感じるものである。そのため、多くの選手たちやチームが伝統的な大会の醸し出す雰囲気呑まれ、半分の実力をも出せずに敗戦してしまうケースをよく見かける。

我々のチームもそうだった。我々も、後一步というところで、ルーマニアに惜敗した。ルーマニアはワールドグループの常連で、またワールドグループから降格するかもしれないプレーオフを我々以上に大切にしていた。そのため、アウェーである大阪に正規メンバー（4人まで）でもない選手を4人も帯同させた。またスタッフも大勢であった。そしてルーマニアは確かに強かったが、ワールドグループに居続けている自信を我々チームは、肌で感じた。私たちのことなど、まるで視界に入っていないと言っても、けしてオーバーではないくらい自分たちに自信を持っていた。その時、私は思った。この勝敗を分けるわずかな差を埋めるものは、我々全員の心の中にあると。それがチーム全体のイメージ、雰囲気を変える。それは、観に来ていただく観客の気持ちさえも変えてしまうのである（ルーマニア戦では、「またか…」と言う落胆の雰囲気をチーム自身が生み出してしまっていた。それは大きな波となり会場全体に広がってしまった）。

この敗戦を機に、私は、ことあるごとに言い続けた。「自分たちのチーム、そして自分自身にもっと自信を持つこと。」そして、それを本心から思うこと。

大げさに言うと、そのチーム、個人個人が出すボディランゲージが相手を倒すムードを作り出すのである。「できない」という空気がチームから離れ、どこかに消え去っていくのである。

相手チームを尊重し、事前に分析をして準備はするが、相手チームを恐れない。本心から堂々と振る舞うことで、相手チームが自分たちを恐れるように仕向けるのである。

フィリピン戦を乗り越えて

2011年のフィリピンでの戦いは、とにかく暑かった。錦織がケガあけで出場を辞退、また杉田がトレーニング中に肉離れをおこし戦線離脱…そして我々にとって最もプレー回数が少ないクレイコートでの戦いと悪いことが重なった。フィリピンテニス協会は、セブ島のビーチサイドに特設クレイコートを準備して日本チームを迎え撃とうとした。デビスカップではチームにこういった機運があるときは、どんなチームも強くなるものだと、私はミーティングで警戒のコメントをしたのを覚えている。大勢集まったフィリピンのメディアは、ことあるごとにこのフィリピンの湿気と暑さに我々日本人は弱く、痙攣した過去の試合をわざと思い出させ絶対痙攣すると毒づいた。そしてメディアの予想通り選手たちは、厳しい暑さの中で痙攣に見舞われた。伊藤だけでなく添田も…。しかしながら、対戦相手のセシル・マミットでさえもぎりぎりの状態だった。サーブをしようとして嗚咽した。この厳しい試合の中、伊藤も添田も痙攣を乗り越え、スタッフは、選手のリカバリーのために全力を尽くした。私は、湧いてくる感情という感情を押し殺して、選手を見守った。

この辛く厳しい戦いをぎりぎり勝ち取ったことで、日本チームの私だけでなくすべてのスタッフと選手が何か確かな手ごたえを感じたはずだ。

選手たちは厳しい勝利の後、相手の前で自分たちを鼓舞することなく、引退するマミットを胴上げする心の広さも身に着けた。（対戦国の選手を胴上げすることは、おそらくデビスカップ史上初ではないか？）。今振り返ると、チームにとってデビスカップに必要なすべてを理解し手に入れた本当の意味の貴重な一戦だったと思う。

スポーツの本当の意味を追及する

フィリピン戦の勝利はその数週間の努力で得たものではない。それは選手個人の長い長い積み重ねの努力の先にあつたのである。個人のツアーは長い。デビスカップは年間に僅かに数週間しかないのに比べ、個人ツアーは28週間くらい平均してあるだろう。選手はそれに加えて、実業団リーグと全日本選手権に出場するものもいる。

しかしながら、「個人」とはなんだろう。我々の仕事に「個人」であることと「公人」であることの区別はあるのだろうか？もちろん、デビスカップは国を代表して戦う唯一の大会と呼ばれるが、そもそも私は、持論ながら、強くなったらもう「個人」などと言う言葉は使わない方がよいと思っている。なぜなら、





周りはもう、そう思っていないからである。特にメディアはそのように扱ってはくれない。また、応援してくださる観客の皆様も日本人が海外で活躍するのを楽しみにしてくださっている。周りがどう思うかはこの次として、実際には自分は“公人”だと思っておいた方がよいと思っ

ているくらいだ。世界で戦うにはそれくらいの気構えがある方がよい。日本人として、またひとりの人間として立派な行動をとることだろう。それくらい強い選手になれば、スポーツを代表していることになり、日本人を代表していることになる。選手の言動のひとつひとつ、またコートでの振る舞いのひとつひとつが、悪ければ自分自身を傷つけると同時にテニスや日本人を傷つけ、良ければ自分自身の価値が評価されるだけでなくテニスや日本人の価値が評価される。選手は、個人戦においても日本を代表しているのだ。ジュニアの選手たちもその気構えは持ってほしいと思う。

メンタルタフネスという学問から、テニスにおいてのものの考え方やコート上での技法を学ぶ前に、両親から、また先生から教わったコミュニティの一員としての精神、それが日本人としての精神につながってくることを知っておいた方がよい。そしてそのような精神と道徳心を持たなくては、メンタルタフネスも薄っぺらなものになるだろう。また、その精神と道徳を持たなくては、実際に過酷な環境でプレーしたときに大きくコンディションを崩してしまうのである。心と体はつながっているのだ。

2011年3月11日、未曾有の東日本大震災が起きた。多くの犠牲者がでた。私も大勢のひとと同じように、毎日テレビを見て泣いた。「こんなところでテニスをしていてよいのだろうか」とも思った。黄色いボールを楽しく追いかけている自分を客観的に見て、これでよいのだろうかと思った。

これは、多くのアスリートだけでなくいろいろな立場におられる方々も感じただろう。デビスカップチームの選手もスタッフも同じように感じていた。

では、「私たちが今できることはなんだろう」。この問いに答えるのは難しいが、私たちにはテニスしかない。テニスと言うスポーツに真摯に向き合い、そしてベストを尽くす姿を見てもらう。



それしかできないが、それが唯一、多くの命を失われた方々への哀悼となればよいと思った。またあのような大震災に直面された方々の、どんな逆境にもくじけない姿を見るにつれ、日本人の誇りと勤勉さ、そして逆境を乗り越える力がそこにあり、そしてそれは我々の中にも失われずにまだ残っていると感じた。

逆に勇気づけられた私たちは、まだまだ逆境におられる方々にエールを送り続けるようなプレーをしなければスポーツをする価値がないし、またスポーツをする人間としてそう思うことは使命ではないかとも考えた。東日本大震災がきっかけで、スポーツの価値、またスポーツの力とは何かを考え、改めてそれに気づかされたアスリートたちやスポーツ関係者は多くいたと思う。間違いなく私たちデビスカップチームも「スポーツとは？」との問いに真摯に向き合った。

被災地をご訪問された天皇皇后両陛下が被災者の方々と膝をついて、長い間お話になっていたのが目に焼き付いた。また、自ら節電にも協力されていたようだ。

私たちは、猛暑の中でも暑さを感じなかった。そしてウズベキスタンを倒した。プレーオフではプレッシャーを感じずにいられた。そして、インドを倒しワールドグループに返り咲いた。熱い日の丸を胸に戦った。

“そうなんだ。すべてはもっと単純なことなのだ。”
信じれば、ひとには（自分には）不可能はない、どれだけそう思い続けられるかだけだったような気がする。

最後に

一緒にワールドグループに行くはずだった故宮城黎子さん、故白石正三さん、故松本昭夫さん、故植田和子さん、添田対ドピック戦は史上最高の試合でした。ありがとうございました。

渡邊康二監督、小浦猛志監督、神和住純監督、福井烈監督、植田実監督、私は5人の監督に多くのことを教わりました。

この機会をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。私と関わったすべての選手とスタッフに感謝したい。ありがとう！そして最後になりましたが、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

竹内 映二 プロフィール

生年月日：1959年5月13日
出身 市：京都府
日本テニス協会ナショナルチームゼネラルマネージャー・
ナショナルチームデビスカップ前代表監督・
オリンピック代表監督・東アジア大会代表監督・
日本オリンピック委員会専任コーチングディレクター

指導技術

指導編

選手育成

ATPランキングTOP100位に向けての強化

増田 健太郎：日本テニス協会ナショナルチーム・アジア大会男子代表監督／デビスカップ代表コーチ



現在男子の日本人選手は錦織圭、添田豪、伊藤竜馬の3選手が、ATPランキングで100位を切って活躍しております。

錦織選手はご存じの通り、ジュニア時代からアメリカに渡り、ジュニア時代後半から日本国内での指導はほとんど受けておりませんが、添田選手と伊藤選手はプロになってから味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点として、ナショナルチームとしての指導を受けて現在活動しております。



今回は彼らがどのようにして国内の環境で育ち、どのような指導を受けてTOP100位の壁を破っていったのかを2回に分けてお伝えさせていただきます。

第1回は私が現役時代に感じた世界の指導とはどのようなものであったかを中心にお伝えして、第2回ではそれをどのようにナショナルの指導に活かし、どのような強化を行って来たかをお伝えさせていただきます。

ナショナルコーチへの誘い

私は2005年から竹内前デリ杯監督のお誘いを受けて、ナショナルコーチに就任させて頂く事になりました。当時はまだ拘束日数も少なくデリの週やその合宿、全日本選手権やアジア大会、そして東アジア大会等の国別対抗戦等の大会の時だけ選手に帯同し、強化というよりは選手をサポートする事が最大の目的でした。

2007年にナショナルテニスセンターが東京の赤羽に設立され、勤務する事になり状況が大きく変化致しました。インドアハードコート2面とトレーニング施設が完備され、ナショナルコーチが配属され、そこに日本のトップのプレーヤーが集まって練習する環境が出来上がりました。ここで2007年から選手の指導を行い、強化のシステムを構築して日本男子テニスの強化への取り組みが始まったのです。

現役時代からの想い

私自身現役の時に世界中を遠征して、ランキングの向上を目指し、多くの大会に参加して来ましたが、これをしていけば世界で勝てるようになるというような明確な指導を行う環境は、日本には存在していないというのが現状でした。

常に試行錯誤しながら、どうしたら世界で勝てるようになるのかを考えて練習を行い、また遠征をしていました。

一緒に遠征して勝ったり負けたりをしていた外国の選手が、数か月後に再会した時は違うステージでプレーしていたということによくあることでした。

ジュニアでは14歳以下くらいまでは勝っていたのに、16、18歳以下になると世界から大きく引き離されてしまうケースもよくありました。

当時は、体格の違いや筋力の違いを嘆いたものでしたが、世界には170cm程度でも活躍している選手がいて、しかし分かっていながらもそれを言い訳にしていたりすることもありました。

そんな中、国内の大会の副賞にスペインのテニスアカデミーにて1か月間練習が出来るというものがあり、その大会で優勝しスペインのテニスを体験する機会を得ました。

ここで私自身が世界に通じる為の練習と、その取り組みがどういうものかという事を体験する事が出来たのです。

スペイン留学

初日の練習からあまりの運動量の多さに、正直、目が回りました。

私自身体力には自信があり、国内では誰よりもハードにトレーニングをこなして来ているという自負があったにも関わらず、想像を超える負荷の高さに驚かされました。

当時、フレンチオープン等の主にクレイコートの大会を観ていて、あまりにハードで凄まじい運動量に、なぜあんなに動けて体力があるのだろうと疑問しか浮かび上がっていませんでした。自分の行っている取り組みでは、到底理解出来ないレベルの運動量であり、何が違うかが根本的に理解出来ていませんでした。

しかし、スペインでの初日のあまりの運動量の多さに、これだけの事をやっていたのならあのくらい動けるようになってもおかしくはないかと、たった一日目の練習で答えを見たような気がしました。とにかく一日の運動量が、例えるなら雑巾の最後の一滴の水を絞り出すようなくらい、体力を使い果たすものなのです。走る量も半端ではなく、ボールの打つ量もいきなり3倍、常に動いていて、止まってボールを打つことは一度もなく、常にハードヒットを求められる為、ただ返すなどというスイングは通用しない内容でした。指導コンセプトは

指導編



非常に明確で、いつも正確な打点で打つポジショニング（常に動いて正確な位置に入らなくてはならない）、ラケットを振り抜くスイングスピード（相手のボール力を利用するのではなく、常に振り抜いて主導権を渡さない）、打つコースを変えるディレクション（同じ場所に返球しない、常に相手

手を走らせる）、この3つ。ラリーもドリルもすべてこのコンセプトに則って作られており、各指導者によって言っている事が違う等という事はなく、非常にシンプルな内容で全てのコーチ達のコーチングが統一されていました。これらのコンセプトを取り入れて行くと、ラリーは常にストレートクロスになり、常に動いた状態が作り出されます。

ドリルも同様に同じ場所で2度打つ事はなく、打つ方向も常に変えて打ち込むというものになります。ドリルは1箱100球近く入っているバスケットを、一つのバスケットがなくなるまで一人で打ち切り、それを6箱連続で行う、とんでない運動量のものでした。

トレーニングも最新の機材などなくても、坂を上がったり階段を上がったりとある物全てを使って行っていました。そういうコンセプトや、ドリルのやり方、トレーニング方法等のみではなく、世界に通用する為に必要な事は何かという、全てにおける基準というものがあるという事を強く感じました。

基準とは？

私が6年間スペインにいた理由は、正にこの部分でした。

練習の初日、目を回しながら感じた事は、これは間違いなく『強くなる』ということでした。正直28歳という年齢で18、19歳くらいの年齢の選手達とスタートラインに立つのは“非常に厳しい”という事は感じていました。しかし、ずっと現役の時に悩み、試行錯誤しながら、どうやったら世界へ行けるのだろうか？と考えていた答えが見つかった気がしたのです。

確かに私自身は、ハードな環境に身を置きながらも、ランキング自体はそれほど大きく上げる事は出来ませんでした。しかし、その当時から一緒にやっていた選手のほとんどは、現在グランドスラムの本戦で戦っているのです。当時、若く才能のある日本の選手を見て感じていたのは、どうしてこんなにテクニックがありながらこのランキングで留まっているのだろうか？という事でしたが、スペインの環境でやっていた選手はその逆で、どうしてそのテクニックで100位に入っているのだろうか？でした。この差はまさに“やっていることの違い”でしかないと感じました。

そうです。すべては基準の差なのです。

詳しく言えば取り組んでいることのハードさの違いです。例えばチャンスボールを打ち込む練習をどのように行うかを例に上げると、自分たちがよく行っていた練習では、数球打ち込んで上手くいくまで、もしくは上手くいったらおしまい、それを数人で交代で行っていました。スペインでは100球近くの球数を連続ですっと打ち続け、無意識でもチャンスボールがくれば自動的に動いて打つことを体が覚えるまでやるといった感じでした。

日本でやっていた練習では有り得ないレベルのハードヒットの要求の上で、数を打って技術を習得してました。ハードヒットと言ってもただ運動量を増やせばいいというものではありません。そこには明確なコンセプトが必要であり、勝つために何が必要かを考える事を外してはいけませんし、選手が確実に強くなっていると実感できる内容でなければなりません。

雑巾の最後の一滴を絞り出すと表現しましたが、そのさじ加減はコーチのテクニックになります。選手は、自分が強くなれる事を感じられる練習には、歯を食いしばってでもトライしてきます。しかし、その逆にただきつだけの練習や、うまくなっている実感のわからない練習にはやる気を出しません。そこは指導者の力量になる部分で、その為にコーチは知識と経験を常に磨かなければならないと思います。こういった基準で指導を受けている選手達が何人もTOP100位に入り、グランドスラムで活躍している姿を見て来て、日本の選手達にそれらを施せば、必ず日本の選手達も“世界で戦える”と信じて指導を行って来ました。

日本人の勤勉さは非常に優れた部分でもありますし、無駄を省きシステムと効率を徹底させる事で、練習の効率を上げれば、海外の常にコート1面を2人で使えるような贅沢な環境に負けないクオリティと負荷を与える事は可能であり、ナショナルチームでは男女コート1面ずつという環境でも100位以内に入る選手を2名強化することが出来ました。

私自身が国内での現役生活で知る事の出来なかった練習量。そして技術を習得する為の練習方法。この基準を変える事こそが世界へ通用する為の術でありました。

現在のナショナルチームA代表の添田、伊藤の活躍で他の選手達も奮起してランキングを上げて来ております。このような効果が日本のテニス界に広がり、世界を目指すジュニア達にも影響して来ることを心から願っております。

今回の第1部では、私が得て来た活動から感じた事、そして基準の違いを知り世界の指導と何が違うのかをお伝え致しました。次回第2部では、ナショナルコーチとして、ナショナルチームにどのような指導を実際にして来たかという事をお伝えさせていただきます。



指導技術

技術論

ボレー編

資格認定講習委員会 副委員長 八島 正幸

1. ボレーの考え方と練習方法

前回のサービス編に続き、今回はボレーをテーマとしてご案内いたします。

※フォア・バックとも基本は同じ発想なので、現在は、同時進行で教えられます。

考え方 … ボレーの種類

(a) ブロックボレー

壁打ちのようにしっかりと面に当てる「速いボールの対処」



(b) プッシュボレー

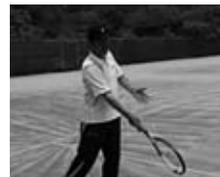
ローボレーのような時に、小さく押すような打ち方



「ゆるくて低いボールの対処」

(c) パンチボレー

小さいバックスウィングからフォロースルーをして打つ打ち方（スライス気味で）



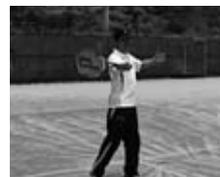
「ゆるくて低いボールの対処」

(d) ドライブボレー（スウィングボレー）

ロブのようなボールを今風のワイパースウィングのようなストロークで打つ打ち方

「ゆるくてサービスラインあたりで打つ中ロブの対処」

※この打ち方は、ストローク編で説明したため省略しましたので省きます。現在では、使う量が増えてきました。相手は振り切られるまでコースが読めないのでも有効です。



段階式練習

(a) ブロックボレー

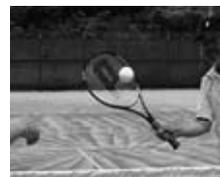
①横向きに（ステップインをして）右手でボールを掴む



②横向きに（ステップインして）フォアハンドイースタン、またはコンチネンタルグリップでラケットを持って（短く～ノーマル）面に当てて、相手にワンバウンドで返す。（当たった瞬間にグリップを掴む）



③少し横方向へのフットワークを加え、ブロックして相手にワンバウンドで返す



技術論

(b) プッシュボレー

英語の表現通り押すようにして打つ（ローボレーの時は特に）
 ※右手と左手が交差する感覚

バント式（打った後ラケットを後に引く感覚）
 ※ボレーの打点が前になる事を補助してくれる



(c) パンチボレー

ゆるい、ハイボレー、チャンスボレーの時の処理
 テニスは丸（円）を描く感覚であることを説明する



バックスウィングはほどほどに引き、必ずフォロースルーを膝ぐらいまではスウィングする



(a) (b) (c) をボールのスピード、ボールを捉える位置（ロー・ミドル・ハイ）
 自分のポジションによってMixして打つ
 相手のスピード・高さ（ロー・ミドル・ハイ）・打つ選手のポジション・カウントが良い悪いによって上記をうまくMixして使用する。

もう一つの教え方手順

① ボールつき

スライス面でボールつき



② 面の角度140°（ゆっくり打つ）～110°（強く・早く打つ）で自分で打つ



ラケットを立てて
 斜め下へ
 →



③ 2人でミニラリー

ネット近くから～ボックス内
 小さいスウィング～振り抜くスウィングまで



④ 1人ボレー

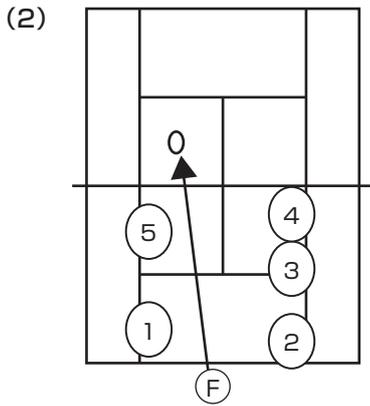
1人ワンバウンドで
 スライスミニラリー



技術論

確認のための練習

- (1) (a) 普通のボールをブロック
 - (b) ローボレーやネットから離れたボールまた、ゆるいボールはプッシュ
 - (c) ハイボレー (ゆるく高いボール) や普通の高さのボールはパンチボレー
- これをMixして打つ事



最終的に、ボレー力の総合判断をする為のドリルとして役立つ

- ① ストレートに深く
- ② クロスに深く
- ③ ショートクロス
- ④ アングルボレー
- ⑤ ドロップボレー

が出来るように練習する

ボレーは、ストローク以上にコントロールが重要です。

※この練習をする事で、各個人の悩みが分かってくるドリルです。

アングルボレーの教え方の手順

グリップは、コンチネンタル

- ① サーブのスライスを説明
第一段階 (ボールの右側をこする)



- ② 手で投げてもらい、スライス気味に
打つと極端に左に飛ぶ



- ③ 両手で丸 (円) をイメージする



- ④ ラケットで同じことをすると、アングルボレーの出来あがり

技術論

ドロップボレーの教え方手順

① スライス面でボールつき



② フィーダーから投げてもらったボールをスライスして手で取る
(ワンクッションで取る)

※必ずステップインして取る事



③ 同じ感覚で少し前へ飛ばす
(ネットとの距離に合わせて
小さいスイングをして止める)



バックハンドボレー

体の使い方を説明

フォアハンドと
バックハンドの
違いを説明

F G S 版 (ゴルフスイングのフォア版)



体重移動がある

B G S 版 (ゴルフスイングのバック版)



右足重心のまま

① ゴルフスイングのバック版

② 空手チョップで
右足ステップインと
体のひねりを説明



③ 丸の説明 → 2人1組
斜め上から下へ丸く



技術論

段階式練習

バックボレー (初心～初級用：フォアハンドボレーと同じ考え方)

- 【両手用】 ① ステップインして左手でボールを掴む
- ② 短く持ったラケット(左手で)で面に当てる
- ③ 上記を両手で



ブロック



- ④ ローボレーでゆっくり押す

プッシュ



- ⑤ 打った後、ラケットを引く

バント



- ⑥ チャンスボールを斜め下にスウィング
・両手のまま
・打ってから左手を離す
パンチボレー



- 【片手用】 ① 構え→体をひねる→ステップインして、打点の位置にラケットを置き



- ② 手投げしたボールをブロックして、相手にワンバウンドで返す。



- ③ ローボレーとして下から上に押す

プッシュボレー



プッシュボレー



- ④ チャンスボールを斜め下に小さくスウィング



技術論

バックのアングルボレー

フォアボレーの考え方に

①ラケットヘッドを立てて、ボールの左側をスウィング



②外側へ丸を描く体操をする



③ラケットを持って同じ動作で出来あがり

ドロップボレー

①BVの回転で自分でボールつき

②投げてもらったボールを小さいアンダースピンをかけて手で取る

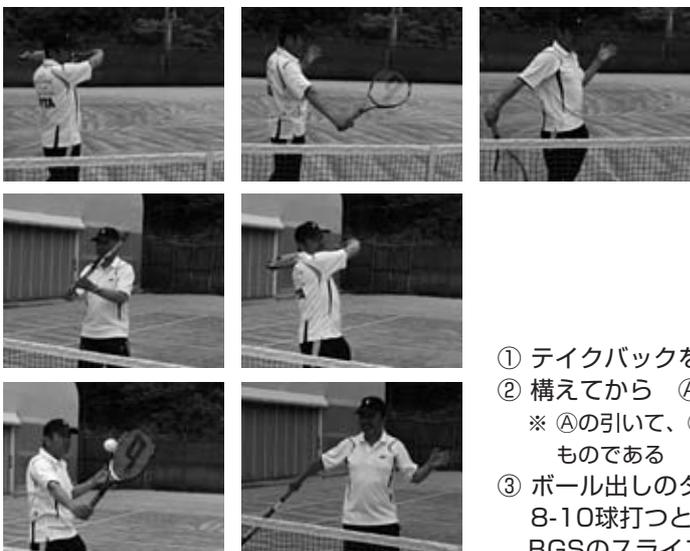


③コート距離に合わせて、前へ飛ばして出来あがり



<上級用として>

バックボレーの練習(野球のトスバッティングのように)



- ① テイクバックをしてから打つ
- ② 構えてから ㊸引いて ㊹ステップイン 打つ
※ ㊸の引いて、㊹のステップインがなかなか出来ないものである
- ③ ボール出しのタイミングを早くする。
8-10球打つとバックボレーが特に上手くなる
BGSのスライスショットが上手くなる

技術論

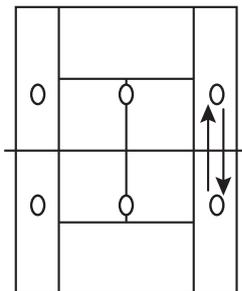
2. 実戦で上手く使える練習方法

ボレーが上手くなる秘訣は、基本のフォームが分かったら

- 目的(安定・コントロール)を持たせて、練習する事です。
- 緊張感を持たせたポイントプレー、興味・攻撃性・積極性を持たせたポイントプレーで練習する事です。

ただ打たせるのでは技術が伸びず、ゲームで使えないものです。
運動能力が乏しいレディースの方でも、最初はボレーが上手くなくても、月に3~4回程ゲームに出てネットプレーを沢山することで、みんな上手くなっています。

(1) 安定 (何球続けられるか競争させる)



- 初級レベルは、ワンバウンドOK
中級以上は、ノーバウンドのみ
- ① FV, BV何でもよい
 - ② FVのみ
 - ③ BVのみ
- ※他方でとったら数に入れない

※ノーバウンドのみで10/20/30~100往復
(意外とノーバウンドのみとなると難しい)
※ポジションを変える事で難度も変わります

(2) コントロール

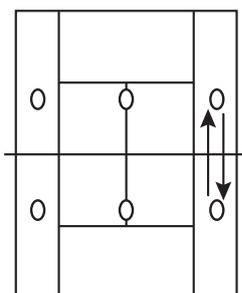
… ボレーは、最終的にスピードよりコントロールです。ダブルスで左側の人のBVが弱いと分かったら、そこを2人で狙えなかったら意味がない。(特にボレー戦で)そのために、徹底して下記の④~⑥までを練習しましょう

④ ワンウェイ (1ヶ所集中)

㊦ グループ: 返球する人。どこに打っても良い。

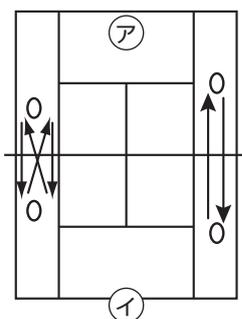
㊧ グループ: コントロールする人

注意点) とにかく早く面を作る事。ゆっくり打つ事。口で「FV」「FV」と言いながらすると良い



- ① 2~5分間㊧グループは㊦グループのFVに返球すること
- ② 2分後㊧は㊦にBVのみしか返球できない
- ③ ㊧㊦の役割交代

⑤ ストレート VS クロス



- | | |
|-------|-------|
| ㊦ | ㊧ |
| ストレート | クロス |
| クロス | ストレート |
- 約3~5分

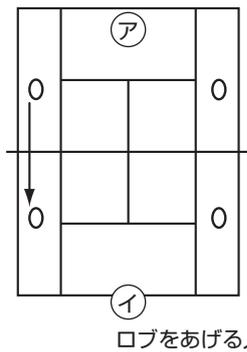
注意点)

- ・口で「ストレート」「ストレート」、「クロス」「クロス」と言いながらすると良い
- ・先ずは近くでゆっくりと10往復できるように始める
- ・少しずつ10~20往復達成目安でポジションをサービスラインまで下って行く
- ・ストレートとクロスの違いは打点ストレートは少し後めクロスは少し早め



技術論

㉑ ロブボレー&ボレー (女子ダブルスでは、ジャンプカ・バネがない人が多いため特に有効なショットである)

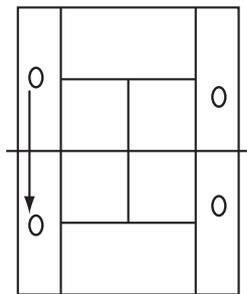


ア ノーマル
イ ロブ
ロブ ノーマル
約3~5分

注意点)
・面をやや上向きにして打つ・ロブと同じ発想で、まず上に高く打つ事。そこから高さ深さを調整していく事
・3~5回程打たせたら実際に抜くロブボレーをしてみると臨場感がでる。
抜かれた方も走って返球する



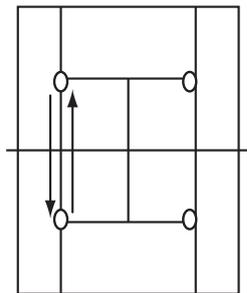
㉒ ワンクッションボレー (これは、ドロップボレーの練習になる。特にレディースで後陣から打たれたボールにドロップボレーが決まると有効である)



ア ノーマル
イ ワンショット
ワンショット ノーマル
約3~5分

注意点)
・まずは、ゆるいボールから始め少しずつスピードを出す

㉓ ロングボレー (ぶつけ合いボレー)

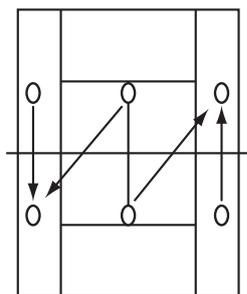


サービスライン上で相手のお腹めがけてぶつけ合い
(効果) ・スピードボールに目がついていく
・ボレーでもステップインの癖がつく

目的
遠くへ打つという事でしっかりと打つ練習になる
スピードがあるので早く構える練習にもなる

コメント)
1992年フロリダマイアミで行われたリフトトーナメントで松岡修造選手が世界No.1のサンブラスにファーストアップ、セカンド4-3リード。サンブラスのサーブ。30-40で松岡選手がストロークで追いこんでネットを取り、バックボレーを打ったがアウト。そこでキープされ負けた。この時慌てずにステップインして引きつけて打って入れに入っていた。

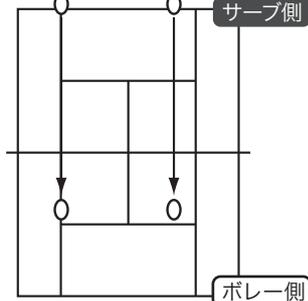
㉔ ダブルスポレーボレー



3~4分できるだけアトランダムに打つ

・これは、ダブルス特有の『4人で1つのボール』という状況なので、打つ時打たない時がある
その流れを組める練習になる
・弱い方にボールを集める癖がつく効果有り

㉕ Sr & ボレー



サービスのボールをボレーで返球する

目的
スピードに慣れる
スマッシュの返球など

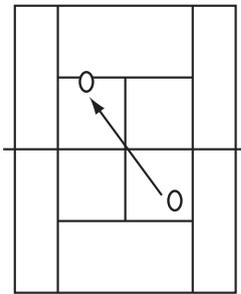


特に、暑い夏の練習時に最高
だらけている時、お互い緊張感がつく
半面に30本入るまで等目標設定をする

技術論

補強練習

特に、ジュニア小4くらいから女子大生初心者のボレー練習の前にこの練習をしておく、ボレーへの移行がスムーズに行く



<初級～中級用>
ボックス内でスライスの試合

<上級用>
ボックス内スライス以外の試合右サイドはBGS、
左サイドはFGSのスライスにするとフットワークが良くなる

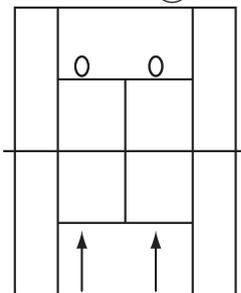
ロングのストレートかクロス
の試合
(スライスのみ)



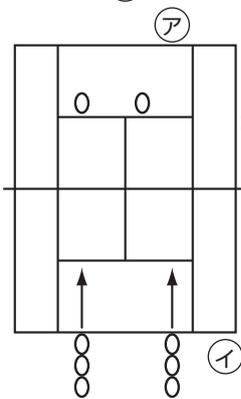
※日頃はトップスピン系で打つので、5～10分程「スライスしか使ったらダメ!」というポイントプレーをすると、すぐ使えるようになる

実際のダブルス練習ポイント編

練習方法



- ① F (フィーダー) がボールを出したら、①グループ2人ともスライスボールを打ちネットへどこに打っても良い(ロブボレーも可)
- ② ②グループは、ボールを打つ人との陣形を考えた上でサービスコートに入る (そこからポイント)
- ③ (a)案 ①グループが、7点取るまで行う。ワンプレー毎
①グループは、ベースラインをタッチする
- (b)案 ①グループは、3～4ペアを作る。時間制で5分間
負けたらベースラインのフェンスまでダッシュする



3. まとめ

ネットプレーは、明るいタイプ・ええかっこしいのタイプや、目立ちたがり屋、走りの早い人、先を読める人、予測能力が高い人、積極性のある人が向いています。例え、向いていないと思ってもそれらの要素を持てるように努力する事です。ネットプレーは、自分が2本ミスしても、相手が3本ミスし、1本だけでも決めれば勝てる攻撃性のあるものです。

頑張ってください!!

プロコーチとして、ボレーの全容を頭に入れて、その人の個性(良い点・悪い点)を把握してその人のGOAL (目標) を考えながら一番良い物(処方箋)を提供して、レッスン後に喜んでお土産を持ち帰って頂く事が出来るように上記の事を参考にしてください。



2011年度コンベンション 開催報告

コンベンション委員会
委員長 安川 裕也
副委員長 古川 彰治



2012年2月7日(火)
～8日(水) JPTAコンベンションを開催しましたので、ご報告いたします。

久々の関西での開催にあたり、まず取り組んだのが森顧問の陣頭号令一、会員の皆様への集客の電話作戦でした。無論、内容も大事ですが、いかに多くの方に参加していただけるかが大切との森顧問の呼びかけで、手分けして集客に全力を注ぎました。その結果、久々に200名の大台を突破しました。

2日目は、会場を三木市にあるブルボンビーンズドームに移し、元プレイヤーの皆さんのレッスンと、ダブルスの交流試合を行いました。

また、同会場ではその週の金曜日からデビスカップ日本対クロアチア戦の開催を控えており、JPTA会員でもある竹内映二監督のご尽力で異例中の異例ながら、両チームの練習をコートサイドで見学することができ、参加者全員大満足!! 交流試合の時間を遅らせて熱心に練習風景を見学しました。

最後になりますが、コンベンション開催に当たり、ご協力いただきました関連企業様、会員の皆様、ご参加いただきました皆様、この場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の基調講演およびセミナーは、「講演者は、会員にお願いしよう」という方針で、基調講演を常務理事で元サッカー協会専務理事平田竹男氏に、セミナーはビジネス部門を理事の森田常樹氏に、そしてコーチ選手部門はパネルディスカッションの形で元プレイヤーの山本育史氏・辻野隆三氏・吉田友佳氏(当日病欠)にそれぞれ依頼をし、熱心に講演していただきました。

そして今回特筆できるのは、その後の懇親会です。社団法人日本テニス事業協会様の「テニス産業セミナー」と同一会場開催となった為、セミナー終了後には、両協会役員の顔

合わせや名刺交換が行われ、また会員の方々も別室で名刺交換等を行い、両協会の親睦を深める事ができました。合同懇親パーティーは総勢約300名での開催となり、会場のあちこちでテニス談義に花が咲きました。

日時：2012年2月7日(火)～8日(水)
会場：7日) 生田神社会館
8日) ブルボンビーンズドーム
参加数：222名

JPTA協会賞 受賞者
PLAYER OF THE YEAR賞：石津 幸恵 様
優秀コーチ賞：村上 武資 様
協力賞：井上 丈士 様
協力賞：竹内 映二 様
協力賞：伊豆高原リゾートホテル ロビング 様
特別賞：内田 海智 様
特別理事賞：野地 俊夫 様

コンベンション 開催決定!!

日時：平成24年11月12日(月)・13日(火)
会場：御殿山ガーデン ホテルラフォーレ東京
〒140-0001 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー

※2日目の会場は、変更する場合がございます。ご了承ください。詳細が決定次第、ご案内いたします。

基調講演概略

テーマ

“なでしこジャパン”の 成長戦略

いよいよ2012年夏のロンドンオリンピックも近づいてきた。“なでしこジャパン”の活躍を期待する多くの声を耳にする。“なでしこジャパン”といえば、女子ワールドカップドイツ大会での優勝は、歴史的快挙とし日本人の記憶に刻まれていることだろう。ではその優勝のカギとなったのは一体何だったのだろうか？

カギ その1

「FIFAランキング」

日本女子サッカーの中国大会前のFIFAランキングは10位だったが、2011年には4位になっていたことが大きく関係している。ワールドカップの組み合わせ抽選においては、まずグループリーグのグループ数だけシード国を選ぶことになっており、ワールドカップドイツ大会では出場国16か国を4つのグループに分けていた。従ってシード国は開催国を含め4か国、当時FIFAランキング4位だった日本は、そのシード国に入れたというわけだ。シード国になる最大のメリットは、シード国同士の対決がグループリーグではないということだ。テニスでは、多くのトーナメントで32人がシード選手となる。そうなれば、自分よりランクの高い選手とは1、2回戦では対戦せず、コンスタントに上位に入ることができ、ポイントも賞金も稼ぐことができる。同じように、ドイツ大会の“なでしこジャパン”は同じくシード国のアメリカ、ドイツ、ブラジルといった強豪国とは自動的にグループリーグではあたらない仕組みになっていたというわけだ。

カギ その2

「優位なトーナメント」

ドイツ戦の勝利は、ただ単に優勝候補の国に勝ったこと以上に意味があった。それは開催国ドイツが自らに有利なようにトーナメントの日程を組み上げていたところへ日本がドイツに勝ち、その道程へ上手くはまったということだ。FIFAで大会運営方法や抽選方式を決定するものの、開催国に関するグループリーグの会場や日程調整は開催国の意向が尊重されることが慣例となっている。ドイツは自国が少しでも有利にな

早稲田大学 大学院 教授

平田 竹男 氏 (常務理事)

横浜国立大学経営学部卒業。1982年通産省入省(法律職)。在ブラジル日本国大使館一等書記官、資源エネルギー庁石油・天然ガス課長を経て、2002年(財)日本サッカー協会専務理事。2006年より早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授。日本スポーツ産業学会理事長、東京マラソン財団理事、日本プロテニス協会常務理事。ハーバード大学J.F.ケネディスクール修士、東京大学工学博士。「なでしこジャパンはなぜ世界一になれたのか?」(ポプラ社)、「サッカーという名の戦争——日本代表、外交交渉の舞台裏」(新潮社、新潮文庫)、「野球を学問する」(桑田真澄との共著、新潮社)、「トップスポーツビジネスの最前線」(編著、講談社)など著書多数。

るよう、日程と移動に余裕をもたせるといった趣向を凝らしていた。それが体力的にもいろいろな準備の面でも大きく影響することは間違いない。こうして、“なでしこジャパン”は開催国ドイツに勝利したことにより、計り知れない成果を勝ち取ることとなった。

私は、このドイツが仕組んだようなスマートな仕掛けを、“ピッチ外での戦略”と呼んでいる。

テニスでいえば、“コート外の戦略”と言った方がいいのですが、選手のトレーニングや戦術分析だけでなく、いかに世界ランキングに反映されるポイントを獲得できるかということをうまく仕組んでいくこと。WTAトーナメントだけに注目するのではなく、ITFトーナメントにより大きな関心を持つ必要がある。日本やアジアにITFトーナメントを数多く作って、日本選手がコンディション面でも金銭面でも出場しやすく、勝ちやすくする。そういった大会は地域が主催する形で、ある程度の賞金規模でも運営が可能であり若手の登竜門としての意義を持つ。世界トップクラスの選手があまり参加しない大会とはいえ、そういった大会でも優勝すれば、ポイントは獲得できる。

最後に、私が当時日本サッカー協会専務理事として女子サッカーの発展を考える際に重視していたことは、「勝利」、「資金」、「普及」の3つをバランスよく発展させるということだ。「勝利」のために「資金」が必要、「資金」のために「勝利」が必要だということは一般的に知られているが、私はスポーツ発展のためには特に「普及」が大切だと考えている。

「普及」の取り組みを続けていけば、才能あるスター選手を多く輩出することができ、このようなスター選手が、国際大会に出ることでテレビなどのメディアで露出する機会も増え、世間から多くの注目を集めることができる。

それがまた「資金」の獲得につながり、その「資金」を選手の育成や強化のために使うことができるようになる。こうした好循環を生み続けることができるスポーツ界は発展を続けていこう。テニス界の発展を願って止まない。

第2回『ブラッシュアップ勉強会』報告書

資質向上・資格認定副委員長
八島 正幸

- 【いきさつ】 □ 講習会や (UP講習会も含めて)プロテストで見られる、勉強不足、技術テクニックの低下、および
 レッスンテストの中で教え方の素晴らしさやユニークさが見られない事が懸念されている。
 □ プロテスト合格以降、プロコーチとして自己研鑽へ行く場がない
 以上の点が問題として浮上しており、解決方法を模索した。

- 【目的】 □ 会員の指導技術レベル向上 (『ア!!魔法みたいに治った』)
 □ 会員ご自身の技術力UP (『うまい!!格好いいフォーム』)
 □ テニスマン・指導者として人間力UPを目指す (『さすがテニスのコーチ』)
 □ 会員同士の横のつながりを密にする (『仲間作り・情報交換の場』)
 ※教育や文化等の教養を身に付ける為に自己投資をする心を持つ事が経営哲学を生んだり、生徒さんの気持ちを理解できる事を改めて感じる場にする。

- 【開催日】 平成24年6月10日(日)～11日(月) 【参加者】 27名
 【場所】 神戸市北区 みのたにグリーンスポーツホテル 【講師】 会員1名 柏井 正樹氏、
 外部2名 中田 研氏、堀内 昌一氏
 【内容】

6/10	スケジュール	内容
11:00	ジュニア指導の考え方 柏井正樹プロ 於 講義室	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア時代の圭について ・テニスのゲームと楽しむ為の法則 ※『3R』 ※『YES』 or 『NO』 ※『Time Management』 ・心 技 体 についての私の考え方 ・次なる圭を見つける為に
12:30	昼食	
13:30	於 テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> ・圭とやった練習 試合中の『この場面』何時、何処に、どんなボールを ・『YES』 or 『NO』 ・練習で工夫したこと ・圭がやった練習の紹介 [Drill] の輸入や開発の時代は終わった ポイントは「何時」「何を」「どれだけ」 言葉がけ=感覚・イメージの共有が重要
16:15		
16:30	中田研先生	<ul style="list-style-type: none"> ・5人の生徒への直接クリニックと矯正ストレッチ等の紹介 (ひざ、肩、肘等)
17:10	『コーチとして学ぶ体のケアの重要性』 移動 於 テニスコート	
17:20	於 講義室	<ul style="list-style-type: none"> ・前回に続いて体のケアについてのコーチとして知っておかなければ ならない基本的な考え方を講義する
19:00	チェックイン 風呂,食事	
20:15	中田先生の講義の続き ・座談会 ・各受講生の自己紹介と感想 ・質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールでは技術だけでなく、体のケアが大切だと伝える事が 必要
23:00		

6/11	スケジュール	内容
9:00	堀内昌一監督 於 講義室	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスの「こわざ」 ・テニスのルール等の常識テスト ・テニスの物理的要素をデータに基づいて紹介
12:00	昼食	
13:00	於 テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> ・各小道具を使つての練習 ① ネットを高くするゴム+目印のヒモの考え方 ② ブルーシート ③ ほうき振り ④ フェンスサーブ ⑤ ペットボトルドリル 等盛りだくさん
16:00		

- 柏井会員への質問の中で「私はテニス遅咲きのコーチですが、強いジュニアを育てられるのでしょうか?」とあったが、答えとして「私がそうですから、皆さん自信を持って下さい!!ただ、しっかり勉強しましょう。」と。皆さん、感銘をうけられていました。
- 中田先生の講義を受けて、これぞ赤ひげ先生だと思いました。誰にも分かりやすく、プラス思考で、嫌味なく指導する姿はプロコーチとして学ばねば!!
- 堀内監督の講義からは、テニスのこわさ=セルフジャッジのミスを習慣づけたのは誰のせいかを考えさせられました。また、各ショットの説明はプロコーチが持っていないデータを用いられ、とても勉強になりました。

今回の内容をそのまま鵜呑みにするのではなく、その人に合わせて、どのように使うか、というところが分かるか否かでコーチの資質・能力が問われると感じました。



良かった点・各講師の本物のエネルギー溢れる内容で聞き入り、質問が続いたほどであった。



- これからも続けて欲しいとの声が多くあがった。
- 2回目の神戸での開催、参加者27名
- 関西よりも他府県からの参加が多いのは注目。遠方では **沖縄**・**静岡** からの参加もあった。

- 今後の課題**
- 申込が遅く、2週間前で10名弱だったので、講師を減らす等の対応に迫られた。
 - 講師の方へ参加人数を連絡できず、打合わせる時間がなかった。
 - 参加者へ資料を送る時間もなかった。

豊富な経験を持っておられるプロフェッショナルな皆様、委員（コーディネーター）と講師に募集いたします。次回は、秋に関西で、冬に東京で開催予定となっております。皆様、振るって御参加ください。お問合せは事務局まで。

ブラッシュアップ報告書のご協力をいただいた会員様
 テニスラウンジ知立 チーフコーチ 西尾 良太会員
 ロングウッド藍住 林 陽介会員
 土佐女子中学高等学校 塩見 一成会員
 サザンウェストテニスクラブ 長谷川 勉会員

ブラッシュアップ勉強会の感想文

2012.07.06 中本 敦志

6月10日(日)・11日(月)に神戸市・みのたにグリーンスポーツホテルにおいて今回で2回目になるブラッシュアップ勉強会が開催され、参加いたしました。

第1回も参加いたしましたが、この勉強会は指導技術のレベルの向上と、個々のテニス技術および人間力の向上を実現すると同時に、情報の共有という理念を広げる事を目的としている点に賛同しています。また講師の方が非常に熱心で、八島副委員長のご配慮もあり、悩みや疑問があれば全て解決して下さる所もこの勉強会ならではのようです。

初日の講師は、カシワイテニスサービスグリーンテニスクールの柏井 正樹プロでした。柏井プロは、錦織選手の幼少期からのコーチであり、錦織選手と行ってきた練習での焦点、練習の中で工夫した事、練習ドリルの紹介をしていただきました。

驚くことに錦織選手は、テニスを始めた初日から「狙って打つこと」ができたそうです。錦織選手は、小学3年生の時に12歳以下で中国大会に出場している時点で、普段から「ここでこうしたら相手が困る」といった事が分かっており、ボールセンスがあり、かつゲームセンスが備わっていたそうです。また、こういった感覚を養うためにも、自分のスタイルではない形で試合をさせたり、ボレーとストロークのラリーをさせたりする事も、無駄を無くすという点で効果的であるようです。そして試合に出場する際には、対戦相手の情報をできるだけ収集して、対策を万全に行っていたそうです。

最近のジュニア選手の多くは、コートに入りプレーする時に表現力が乏しいように感じます。声を出し、笑顔で挨拶ができればアピールすることもでき、他の選手よりも先にコーチから話しかけてもらえたり、ヒントをもらえたりする事もあるので、テニスコートに入れば誰よりも強烈さを発揮して、チャンスを潰さず自ら掴めるようになって欲しいと思います。

また、我々指導者と子供たちとのイメージと言葉の共有が非常に大切であると感ぜさせられました。言葉のイメージが共通でないと、言いたい事は伝わらないので、指導者と子供たちの間に、言語やイメージに差異が生じた時には、常にすぐに修正していく必要があると感じました。

次なる錦織選手を見つけ育てるためには、発見したタレントが安心して着実に、上れる階段を予め準備しておく環境整備が必要であり、次のステージに行く時に紹介できるルートやつながりを作っておくことが大切であると学びました。

夕方からは、ブラッシュアップ勉強会恒例の、阪神タイガースのチームドクターであり、ナショナルチームのドクター

である中田 研先生の講習会でした。怪我の予防やトレーニング方法、筋肉の働きを勉強させていただきました。

筋肉には反対の働きをする主動筋と拮抗筋があり、拮抗筋を緩めると力の伝達が最高になります。筋肉をつけるよりも拮抗筋を緩める方が、パフォーマンスも上がり、関節の抵抗を減らすことができることも学びました。

また、テニスはいかに止まるかの減速スポーツであるので、考え方やそのトレーニングも大変参考になりました。

夕食後の講義では、前回同様23時過ぎまで我々指導者の質問攻めにも快く応じていただき、本当にありがとうございました。

2日目は亜細亜大学の堀内 昌一監督による技術の解説とコーチング・矯正法を講義とオンコートで行いました。

指導者は選手に、スポーツを通して身に付けるべき精神と態度を伝えなければいけません。試合で獲得するタイトル以上に、スポーツマンシップを身に付けてもらわなければならない事も考えさせられました。

また、指導者にとって、試合というものを自分の目で観に行く事の必要性も改めて感ぜさせられました。ストロークでは目的を達成するために必要な戦術的技術として9つの調整を行いました。そして、コートの大きさを数値で認識して、戦術を考えていく事も勉強できました。サーブについても、空間認識を意識したりと様々な情報をいただきました。

堀内先生からは、ブレない考えを持ち、間違いを間違いと言える考え方に共感させられました。

今回も柏谷プロ、中田先生、堀内先生から刺激を沢山いただきありがとうございました。また、こういった勉強をさせていただける場を作って下さった八島副委員長、JPTAの皆様、ありがとうございました。

我々指導者はここで得た情報を知恵にし、他のスタッフと共有して現場で活かす事が一番大切であると思います。このテニス界をさらに盛り上げていけるように日々精進していきたいと思っています。



準会員募集「ワークショップ」開催報告

ワークショップ委員会

第2回

開催日：1月14日(土)

会場：江坂テニスセンター(大阪府)

参加者：一般5名

第1回と同じく、引き続き参加者は少なめでしたが、受講者のテニスのレベルが高く、プロテスト試験にも大変興味を持たれているようでした。少人数であった為なのか、始終、とても和気あいあいとした良い雰囲気で行進し、楽しくそして無事に終了することができました。講義中もプロコーチの指導に感銘を受けた様子で、『ビデオを持参すればよかった』という声が出るほどでした。

ワークショップ委員会：委員長 古川 彰治

第3回

開催日：4月16日(月)

会場：リョーコテニスクラブ(広島県)

参加者：一般10名、JPTA会員5名

広島でJPTAの行事が行われるのは久しぶりということで、山口県や香川県からも参加者がありました。

昨年の全国レディースで準優勝したチームのメンバーの方もテニスの指導について興味があるとの事で参加され、段階的指導法等大変参考になったと好評でした。

ワークショップ委員会：副委員長 余語 敏彦

第4回

開催日：5月11日(金)

会場：メガロス神奈川インドアテニススクール

参加者：一般 12名、JPTA会員 6名

JPTA会員の皆様よりワークショップの参加をご紹介していただいたとの声も多く、また、会員の皆様にも新たな勉強の場として活用していただけるように今後も活動をしていきたいと感じました。

一般参加者の真剣な眼差しを受けながら、参加会員の御協力や心遣いで、和やかな雰囲気の中、この講習を終える事が出来たこと、心から皆様に感謝しています。

講師：國利 祥司

第5回

開催日：6月4日(月)

会場：北九州ウェストサイドテニスクラブ

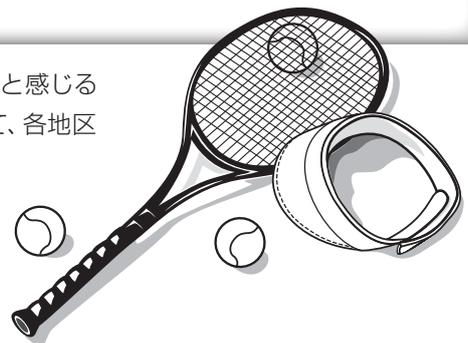
参加者：一般 6名 JPTA会員4名

今回はJPTA会員の方々も参加され、鹿児島からの参加者もありました。グリップについての講習や段階的指導法等熱心に勉強し、久しぶりに刺激になりこれからのレッスンに役に立てたいという声が多かったです。

また、九州は広いので、今後は南の鹿児島や熊本あたりでセミナー・ワークショップ・プロテスト等を行って欲しいとの要望がありました。

ワークショップ委員会：副委員長 余語 敏彦

まだまだ受講者からは「準会員」に対して、あまり興味を示す様子がないと感じることもありますが、今後開催を重ね、集客、告知方法の再考をさらに進めて、各地区会地区長のご協力も頂きながら全国に広めて行きたいと思っております。また、JPTAのポイントが修得できるので、今後もこのような行事を定期的に行なって欲しいとのご要望を多くいただいております。是非、JPTA会員の皆様のご参加・ご紹介いただきたくお待ちしております。





2011年度

- 第14回 JPTAニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン全国大会
- 第2回 JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT U13全国大会
- 第2回 JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT U15全国大会

全国大会の舞台を北九州市に移してはや3年が経ちました。本大会も北九州市のご協力のもと、国内大会全国56会場および、海外大会のバンコク大会・ロサンゼルス大会の各予選

報告書

育成・普及事業部 事業部長 藤沼 敏則



から選ばれた子供たち約270名が集結し、盛大な中無事終了することが出来ました。

これもひとえに予選会を開催していただきましたオーナー様そして、JPTA会員皆様

のご理解とご協力のお蔭と、ジュニア育成委員会一同心より感謝いたしております。

そして本大会も審査員として、辻野隆三ジュニア育成委員長、田村伸也育成・強化ヘッドコーチ、山本育史育成・強化チーフコーチをはじめ、右近憲三プロ・藤井渉プロ・佐藤哲哉プロ・岩淵聡プロ・本村剛一プロ・吉田友佳プロ・小畑沙織プロ・米村知子プロ・平沢潤プロなど錚々たるメンバーのご協力をいただき、本大会を素晴らしいものにして頂きました。

今年度は2010年度から始めました「JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT U13・U15」に加えて、新たに「第1回 JPTA グリーンボール大会 U10」を開催いたします。

このグリーンボールは、今年1月1日ITFより10歳以下の大会には、必ずグリーンボールを使用するという規定が定められました(罰則はありません)。



日本プロテニス協会としてもこのPLAY+STAY Tennis 10's を推奨し、テニスの普及に努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも会員皆様のご理解とご協力を頂きますよう、宜しくお願いいたします。



最後になりますが、予選大会から全国大会までさまざまなサポートをいただきました企業様に、厚く御礼申し上げます。



**2012年度 第15回
ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン
地区大会会場**

【全国大会】 2013年2月23日(土)～24日(日)

地区	日程	会場名
北信越	7/8(日) 終了しました	スポーツドーム・エアーズ
四国	7/22(日) 終了しました	テニスアリーナガーデン福島
東海	8/5(日) 予備日 8/12(日)	アクトスポーツクラブ
北信越	8/22(水)	能登藤波運動公園(サマーキャンプ)
関東	8/23(木)	成城テニスアカデミー
関東	8/31(金)	メガロス柏テニススクール
九州	9/9(日)	スターテニススクール
北信越	9/17(月・祝) 予備日 10/8(月・祝)	軽井沢塩沢テニスコート
中国	9/17(月・祝)	広島広域公園テニスコート
関東	9/17(月・祝)	MIRAI TENNIS ACADEMY 横浜校
九州	9/23(日)	北九州ウエストサイドテニスクラブ
北信越	10/8(月・祝)	グリーンインドアテニススクール
近畿	10/14(日) 予備日 10/28(日)	C's ラケットクラブ
北海道	10/28(日)	宮の森スポーツ倶楽部 宮の森校
東海	11/3(土・祝)	ピスタ ヴェルデ 春日井 TC
東海	11/4(日) 予備日 11/11(日)	三島市市民体育館
関東	11/23(金・祝) 予備日 11/25(日)	麗澤中学・高等学校
東北	11/25(日)	山形県総合運動公園施設
沖縄	11/25(日)	那覇市かんぼレクセンター ※施設予約の関係で3ヶ月前に変更の可能性あり。

**2012年度 第1回
JPTAグリーンボールテニス(U10)
地区大会会場**

【全国大会】 2013年2月22日(金)～23日(土)

地区	日程	会場
東北	5/27(日) 終了しました	山形県総合運動公園施設
東海	男子：7/25(水) 予備日 7/27(金) 女子：7/26(木) 予備日 7/27(金) 終了しました	伊東市小室山公園テニスコート
関東	8/17(金)	フェローズスポーツ
近畿	男子：9/2(日) 予備日 9/16(日) 女子：9/9(日) 予備日 9/23(日)	Let's テニスプラザ西浜
近畿	男子：9/23(日) 予備日 10/8(月・祝) 女子：10/7(日) 予備日 10/8(月・祝)	C's ラケットクラブ
北海道	10/6(土)	ライジングテニスクラブ
九州	10/7(日)・10/8(月・祝) 予備日 10/14(日)	北九州ウエストサイドテニスクラブ
東海	10/14(日)	ピスタ ヴェルデ 春日井 TC
北信越	11/11(日)	グリーンインドアテニススクール
関東	11/23(祝日) 予備日 11/25(日)	麗澤中学・高等学校
関東	11/23(祝日)	MIRAI TENNIS ACADEMY 横浜校

**2012年度 第3回
JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT (U13)
地区大会会場**

【全国大会】 2013年2月22日(金)～23日(土)

地区	日程	会場
九州	7/15(日) 終了しました	パークドーム熊本
東海	男子：7/25(水) 予備日 7/27(金) 女子：7/26(木) 予備日 7/27(金) 終了しました	伊東市小室山公園テニスコート
近畿	7/30(月) 終了しました	紀三井寺競技場テニスコート
近畿	男子：8/11(土) 予備日 8/28(火)・29(水) 女子：8/12(日) 予備日 8/28(火)・29(水)	C's ラケットクラブ
関東	8/16(木)	フェローズスポーツ
東海	9/2(日)	ピスタ ヴェルデ 春日井 TC
関東	9/15(土)	大磯プリンスホテルテニスコート
九州	10/7(日)・10/8(月・祝) 予備日：10/14(日)	北九州ウエストサイドテニスクラブ
中国	10/20(土)・21日(日)	みよし運動公園
北海道	10/27(土)	宮の森スポーツ倶楽部 宮の森校
北信越	11/11(日)	グリーンインドアテニススクール
東北	11/23(金)・24(土) 予備日 11/25(日)	山形県総合運動公園施設
関東	11/23(金・祝) 予備日 11/25(日)	麗澤中学・高等学校
海外	12月開催予定	アメリカ(ロサンゼルス近郊予定)

**2012年度 第3回
JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT (U15)
地区大会会場**

【全国大会】 2013年2月22日(金)～23日(土)

地区	日程	会場
東北	5/26(土)・27(日) 終了しました	山形県総合運動公園施設
九州	7/15(日) 終了しました	パークドーム熊本
東海	男子：7/25(水) 予備日 7/27(金) 女子：7/26(木) 予備日 7/27(金) 終了しました	伊東市小室山公園テニスコート
近畿	7/31(火) 終了しました	紀三井寺競技場テニスコート
近畿	男子 8/13(月) 予備日：8/28(火)・29(水) 女子 8/14(火) 予備日：8/28(火)・29(水)	C's ラケットクラブ
関東	8/16(木)	フェローズスポーツ
関東	9/15(土)	大磯プリンスホテルテニスコート
東海	9/30(日)	ピスタ ヴェルデ 春日井 TC
九州	10/7(日)・10/8(月・祝) 予備日：10/14(日)	北九州ウエストサイドテニスクラブ
中国	10/20(土)・21日(日)	みよし運動公園
北海道	10/27(土)	宮の森スポーツ倶楽部 宮の森校
北信越	11/11(日)	グリーンインドアテニススクール
関東	11/25(日) 予備日：12/9(日)	麗澤中学・高等学校
海外	12月開催予定	アメリカ(ロサンゼルス近郊予定)

※2012年7月13日時点での予定です。日程調整中の会場もございますので最新の情報は、協会ホームページをご参照ください。

JPTA海外遠征 in 回サンゼルス 報告書

藤沼 育成・普及事業部長
辻野 ジュニア育成委員長

PENINSULA RACQUET CLUB



日 程:2012年6月12日(火)~25日(月) 12泊14日
場 所:アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス
参加者数:17名(ジュニア)
スタッフ:藤沼 育成・普及事業部長、平沢 育成・普及事業副部長、
辻野 ジュニア育成委員長、荒井 ジュニア育成委員

【遠征中の主なアクティビティ】

1. ジャッククレーマークラブにて練習、合同練習会&対抗戦
2. ペニンシュララケットクラブにて練習&対抗戦
3. サウスベイテニスセンターにて練習
4. ミラコスタ高校にて練習&練習試合
5. ロバート・ランズドープ氏によるレッスン
6. デニス・リザ氏によるレッスン
7. 内田友来先生(カイロプラクティス)の講義
(怪我の予防と効果的なストレッチについて)
8. ランニング&トレーニング



【プロフィール】

- ロバート・ランズドープ氏
ピタス・ゲルレイテス、ジョン・マッケンロー、トレシー・オースチン、エリオット・テルシャー、ステファニー・レーヒ、ビート・サンブラス、リンゼー・ダベンポート、マリア・シャラポワ等を育成し、世界一を輩出したコーチ
- デニス・リザ氏
ビート・サンブラス(9歳~12歳)、リンゼー・ダベンポート(8歳~10歳)など、アメリカを代表する選手のジュニア時代のコーチとして有名。アメリカ・ジュニアデビスカップ監督なども務める、アメリカを代表するジュニア育成コーチ
- 内田 友来 先生
陸上、競技スキーの競技経験を基に、スポーツ障害に詳しく、カイロプラクティックと鍼、漢方の複合治療に定評があります。アメリカ代表プロアイススケーターを始め、LAに遠征に来たクルム伊達選手等の様々な競技のプロアスリートの治療経験も豊富

【遠征総評】

今回の遠征は過去最多の17名の参加となりました。参加ジュニアが、9歳から14歳と年齢差のみならず、レベル格差も非常に大きく、アクティビティの調整に苦労しました。今後の課題として、遠征参加者募集時の参加者のレベル設定等が検討材料となりました。

現地在住の平沢理事に遠征をトータルでコーディネートして頂き、レンタカー代や宿泊費等の経費を抑える事が出来、対抗戦や練習会場の確保、特別レッスンの設定にご尽力頂きました。遠征直前に2クラブでの対抗戦が出来なくなるハプニングもありましたが、他クラブとの対抗戦や合同練習会を企画・実施することが出来ました。また辻野プロの師匠でもあるロバート・ランズドープ氏による特別レッスンを入れる事が出来たことなど、臨機応変に対応できたことで予定以上の内容になったと思います。

遠征終了後、参加ジュニアのご父兄から協会へ感謝やお礼のメールを頂いたとの報告を受けており、遠征に携わって頂きました多くの方々のご協力に対して、心から感謝しております。

来年のロス遠征では、さらに内容を充実させるべく、現地コーチ、トレーナーへのアプローチも行いました。

この遠征が、ジュニア達の大きな羽ばたきのきっかけとなることを願っております。

最後になりますが、ご協力いただきましたすべての方々に、
改めましてお礼と感謝を申し上げます。



【選手紹介リレー】

ProPlayer
Interview

プロプレイヤー インタビュー

「選手紹介」コーナーでは、往年の選手から若手選手まで出来るだけ多くの選手の皆さんにインタビューをさせて頂き、プロとしての志や垣間見える素顔の部分をご紹介していきたいと思えます。

第4回目のページを飾るのは「奈良くるみプロ」です。ジュニア時代から輝かしい戦績を残し、2009年には全日本テニス選手権シングルス優勝、フェドカップ代表選手に選ばれるなど、日本女子テニス界を牽引すべく躍進中の若手トッププレイヤーです。



プロフィール

奈良 くるみ (なら くるみ)

- 生年月日：1991年12月30日 20歳
- 出身地：兵庫県川西市
- プロ転向：2009年4月
- 所属：大阪産業大学
- プレースタイル：右利き / ベースライン / 片手 / 両手
- 得意なショット：バックハンド
- テニスを始めた年齢：3歳

< 主な戦績 >

- 全国小学生テニス選手権大会(シングルス)準優勝(2002)
- 全国小学生テニス選手権大会(シングルス)優勝 (2003)
- 全日本ジュニアテニス選手権(18歳以下シングルス) 優勝
- ウィンブルドン選手権 女子ジュニアダブルス 準優勝(2007)
- 全米オープン(ダブルス) ベスト4(2007)
- ウィンブルドン(ダブルス) ベスト4(2008)
- 世界スーパージュニアテニス選手権大会(シングル) 優勝(2007)
- カンガルーカップ(ダブルス) 優勝(2008)
- 浜名湖国際女子(シングル) 優勝(2008)
- 十勝帯広国際女子(シングル) 優勝(2009)
- 全日本テニス選手権(シングル) 優勝(2009)
- 2012 フェドカップ日本代表
世界ランキング最高位：
シングルス 101位
ダブルス 237位



奈良プロにうかがいました

- Q01 テニスを始めたきっかけを教えてください。
- 家族がテニスをしていたので始めました。
- Q02 年齢や状況で次第に変化してきたと思いますが、一日どれくらい練習をするのですか？
- 試合期間ではない時は、午前と午後合わせて5時間程です。
- Q03 現在、重点をおいているトレーニングはありますか？
- 身体を強くする為に、ウェイトトレーニングを行っています。
- Q04 テニスをする上で、こだわっていることはありますか？
- 練習でも試合でも集中しながらテニスを楽しめるように心がけています。
- Q05 海外遠征には英会話が必須ですが、どうやって勉強をしていますか？
- 私は洋楽を聴くので、歌詞を訳したりしながら勉強しています。
- Q06 奈良プロにとって「コーチ」とはどんな存在ですか？
- 自分のテニス人生と一緒に考えたり支えてもらえるパートナーです。
- Q07 プロを目指すジュニア達に、そしてJPTA会員に一言お願いします。
- 私の今の目標はトップ100位に入ることです。その為には身体を強くし、技術も向上していかなければなりません。しっかり努力してみなさんに応援してもらえるように頑張ります。



JPTA 能登国際女子オープンテニス2012 情報

今年で6回目を迎える“JPTA能登国際女子オープンテニス2012”が、9月に石川県能登町にて開催されます。

この大会は、会場となる藤波運動公園の海と山に囲まれた最高のロケーションと、アウトドア16面インドア4面の豊富なコート面数という恵まれた環境の中、地元スタッフの方々がどんな時も“選手の為に!!”という気持ちで一生懸命大会を盛り上げ、とても心温まる素晴らしい大会です。

そして、選手たちもその気持ちに応えるかのように、毎年熱いプレーを見せ、地元ファンを大いに喜ばせてくれています。

また、昨年は東日本大震災という忘れることのできない出来事がありました。私達にも何かできることはないかと、トーナメント期間中募金箱を設置し、予選の前日にはチャリティーイベントを開催し、多くの選手たちが協力してくれました。このイベントの参加費は全て東日本大震災の義援金として、選手たちの想いと一緒に届けられました。このイベントは今年も引き続き行いたいと思っております。

昨年も大いに盛り上がった今大会ですが、決勝ではベルギーのヘンドラー・タマリン選手と日本の江口実沙選手という若手有望選手同士の対戦となりました。両者の激しい打ち合いと気迫あふれる

プレーに会場は大歓声でした。ヘンドラー選手がその打ち合いを制し優勝しましたが、これからの活躍が本当に楽しみな二人です。

そして、この春に行われたフェデレーションカップ(国別対抗戦)では、そのヘンドラー選手がベルギー代表として再来日し、伊達・森田両エースと戦い、素晴らしいプレーを見せてくれました。

若手の登竜門とも言われる“JPTA能登国際女子オープンテニス”この大会からヘンドラー選手のように、大きく成長活躍してくれる選手が育ってくれることは、私たちにとって何よりも嬉しいことであり、今年もどんなニューヒロインが生まれるのか今から本当に楽しみです。

そして、この大会は能登町あげての大イベントとして、地元の皆様にも楽しんでいただけるよう、今年も様々な企画を用意しています。

この“JPTA能登国際女子オープンテニス”が能登と石川、そして北陸を代表するトーナメントとなるよう、そして、テニスの力で日本中に元気が送れるような、そんな大会にしたいと思っております。

トーナメントディレクター 榎木 聖



■ 大会スケジュール (予定)

日程	9/1(土)	9/2(日)	9/3(月)	9/4(火)	9/5(水)	9/6(木)	9/7(金)	9/8(土)	9/9(日)
試合予定	設営 プラクティス サインイン	シングルス 予選1回戦 ～	シングルス 予選決勝/予選決勝 ダブルス 予選決勝	シングルス 本戦1回戦～ ダブルス 本戦1回戦～		シングルス 本戦2回戦 ダブルス 本戦準々決勝	シングルス 本戦準々決勝 ダブルス 本戦準決勝	シングルス 準決勝 ダブルス 決勝	シングルス 決勝
開始時間	16:00-18:00	9:00		9:30			10:00	11:00	11:00
イベント	9:30～ 復興支援チャリティーイベント ダブルストーナメント	やってみんかいね				プロコーチ レッスン会		ジュニアレッスン会	
	13:00～ / 14:30～ 復興支援チャリティーイベント Let's Enjoy Tennis					やってみんかいね		ソフトテニスレッスン会 中牟田杯北信越予選大会 やってみんかいね	
絵画コンクール作品展示									

■ イベント詳細 (予定)

復興支援 ダブルストーナメント

日時: 9月1日(土)
種目: 男子ダブルス 女子ダブルス
定員: 各16組
(申込人数により変更の場合あり)
参加費: 1組4000円(当日払い)
試合方法: 1セットマッチ、トーナメント方式
申込: 事前申込み
締切: 先着順
(定員になった時点で締め切らせていただきます)



申込用紙は、能登国際女子オープンテニス2012 HPよりダウンロードできます。

最終締切 8/24

復興支援 Let's Enjoy Tennis

日時: 9月1日(土)
①13:00～13:30
②14:30～15:00
*各回30分 選手&コーチは当日発表
定員: フリー
参加費: 1回500円(当日払い)
申込方法: 当日受付



こどもテニス絵画 コンクール

能登町とテニスをテーマとした作品を募集!!
石川県の小・中学生を中心とした絵画作品を展示致します。

※上記の内容は予告なく変更する場合がございます。ご了承下さい。

山本育史プロ テニスクリニック ジュニアテニスレッスン会

元デビスカップ日本代表、全日本選手権シングルス2連覇の戦績を持つ山本育史プロのレッスン会

9月6日・7日
クリニック
どなたでもご参加いただけます。



9月8日・9日
北信越のジュニアを中心としたレッスン会

ソフトテニス レッスン会

毎年大好評のソフトテニスレッスン会!
9月8日(土) / 9月9日(日)

やってみんかいね

毎年恒例のやってみんかいね!
今年も挑戦してみてください!
9月2日(日)～9日(日)



詳細は、公式ホームページまで!!

<http://jpta-tennis12.noto-tourism.com/>

2012 ITF Women's Circuit



JPTA 能登国際女子オープンテニス2012 予選出場者募集!!

- 大会名称：JPTA能登国際女子オープンテニス2012
- 主催：公益社団法人日本プロテニス協会
- 公認：国際テニス連盟 (ITF)、公益財団法人日本テニス協会
- 特別後援：能登町
- 特別協力：北國新聞社
- 協賛：Prince (グローブライド(株))、大塚製薬(株)、ヨネックス(株)、プリチストンスポーツ(株)、(株)ゴーセン
鹿島建設(株)、ナガセケンコー(株)、日本ヒューレット・パッカード(株)
- 後援：石川県テニス協会、北信越テニス協会、テレビ金沢、北陸放送、エフエム石川、金沢ケーブルテレビネット
- 協力：藤波運動公園、金沢市テニス協会、日本女子テニス連盟石川県支部、能登町テニス協会、石川県漁業協同組合

国内で行なわれるITF WOMEN'S CIRCUIT「JPTA能登国際女子オープンテニス2012」の予選を下記の通り行ないます。本戦32名・予選64名で行なわれる、本大会には国内のトップ選手をはじめ、外国からも多数の選手が出場してきました。今回その本戦出場を賭けたシングルの予選トーナメントを、下記の要項で開催いたします。

本戦に出場できるかどうかぎりぎりの選手をはじめ、大学生・ジュニア選手の多数の挑戦をお待ちいたしております。WTAポイント取得し世界を目指しましょう。

- 日 時：2012年9月2日(日) 9:30~
- 会 場：藤波運動公園 〒927-0441 石川県鳳珠郡能登町字藤波23-1-1
TEL) 0768-62-3884 FAX) 0768-62-4445
- 種 目：女子シングルス <本戦出場最大8名(64名参加時)を選びます>
- 参加料：US\$40または4,000円(為替レートによります)
- 参加資格：ランキング上位64名(IPIN登録・オンライン登録済者)
- 大会構成：

能登国際女子 本戦32名	US\$25000の大会です。
↑ 8名	
能登国際女子 予選64名	ランキング上位者より選考されます。 ここからは8名が本戦に上がります。

※ JPTA能登国際女子予選・本戦に出場される選手の皆様へ

- 本戦・予選に出場する全ての選手は、事前にIPIN登録(無料)しないと出場できません。下記サイトをよく読んでエントリー手続きを行ってください。メールアドレス(携帯は不可)が必要です。またエントリー、ウィズドロー等の大会手続きはインターネットでの「オンラインサービス」がメインとなります。IPIN登録自体は無料ですが、オンラインサービスの手数料として年間45ドルが必要となります。(要：クレジットカード)
- 大会参加希望者は全員ITFのIPIN登録とオンライン登録(45ドル)を予選サインインまでに完了させて下さい。詳しくはJTAホームページ http://www.jta-tennis.or.jp/JTA/information/registration/ipin_registration.html 又は、ITFホームページ <http://www.itftennis.com/ipin/> をご参照下さい。
※IPIN登録とオンライン登録を済ませていないと、予選サインインが出来ません。
- JPTA能登国際女子オープンテニス2012予選サインイン
9月1日【土】 午後4時から午後6時まで 会場：能登町 藤波運動公園

JPTA会員人物紹介



会員人物紹介では理事、地区長、幹事の皆様からの情報を基に、各地区で活躍している会員をピックアップし紹介します。

今回は私が大変お世話になっている大先輩と、恥ずかしながら弊社の若手を紹介させていただきます。まず(株)古川テニス企画の高橋真人会員。高橋さんは私がJPTA入会する前から色々とお世話になり、脱サラして右も左も分からない私へ気さくに話しかけていただき大変心強かった存在です。今でもお酒の席では私の「相談役」で、愚痴を聞いていただける大切な方です。そして弊社の若手No1、榎本拓也会員。入社以来、現場でみんなを引っ張って、何事にも、とにかく挑んでいく姿勢は、最近の若いコーチには稀な資質の持ち主と期待をしている人物です。高橋会員・榎本会員、そして私が連絡役として関西のコーチが集まって勉強会や親睦会など不定期ながら「コーチ会」を開催しています。会社や上下関係、協会などの垣根を越えて集まっています。あえて「関西」という名前をコーチ会の前に付けず、エリアにとらわれない集まりを目指して共に上を向いて進んでいこうという共通の志を持って活動中です。またこちらの活動もよろしくお願ひします。

山崎 章
有限会社エイベックス代表取締役
JPTAジュニア育成委員会副委員長



高橋 真人会員

皆様こんにちは。兵庫県在住、古川テニス企画に勤務しております高橋です。

ここしばらくは、委員会等の協会活動で直接表に出ることはありませんでしたが、今年2月のコンベンションの際は、参加へのお誘いの電話を久しぶりにさせて頂いた方も多数ありました。

私としてはJPTAの活動の中では、ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバンの立ち上げから数年間に渡って、熱い仲間と一緒に関わり協力し合ったことが印象的です。

弊社では、1995年に当時兵庫県テニス協会副会長であった小浦猛志氏の発案によって始まった「グリーンピアジュニアテニスカンプ」の開催運営を17年間継続しています。このキャンプはテニスのテクニックだけでなく、低年齢児の基礎的運動能力の測定・開発をはじめ、メンタルや栄養学などの講義を取り入れ、心技体をバランスよくトレーニングすることを目的としています。

このキャンプを当時のJPTAジュニア部会担当役員であった方々が視察に来られ、JPTAで出来る形を模索・試行錯誤された後に提案されたのが、今日のジュニアスカウトキャラバンの始まりでした。そして私もジュニア委員として、立ち上げから第一回の開催、そしてその後数年間は各予選会場や全国大会のスタッフとして参加させて頂き、たくさんの友人・仲間を得ることができました。

<プロフィール>

- ①テニス歴 35年
- ②コーチ歴 28年
- ③ライセンス
JPTA/USPTAプロフェッショナル3、
テニスプロデューサーⅡ (公益社団法人日本テニス事業協会)
- ④趣味 多趣味
音楽 (jazz、ブルースetc)、料理、読書、自転車 等
- ⑤レッスンのモットー 辛抱強く
- ⑥好きな言葉 ALL FOR ONE ONE FOR ALL



また、現在は竹内映二氏を中心に月1回くらい、コーチ仲間の集い「コーチ会」の面々と意見交換会(飲み会?)をディーブな街・十三で行っています。所属を超えたとなたでもご参加頂ける会ですので、どうぞお気軽にご参加ください。見かけはいかついですが恐くありません(笑)!

「一期一会」の想いを大切に、これからも熱いコーチとして頑張ってもらいますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。





榎本 拓也 会員

私がテニスに出会ったのは中学生の時でした。そこからテニス漬けの毎日でした。とにかく毎日毎日テニスをして

いました。高校でもテニス部に入り、大学はテニス部のある大学を探して入部しました。大学卒業後、一般企業に就職しましたが1年半で退職し、テニスコーチの道へ進むことになりました。こうして振り返ると常にテニスを通じた環境が自分を成長させてくれたと感じています。テニスコーチの道を歩みはじめてから、最初は自分がテニスをする事の喜びの方が大きかったのですが、次第に教えることの喜びや楽しさの方が大きくなりました。もちろん同時に教えること、伝えることの難しさも知りました。今はテニスを通じて自分が今まで教えてもらったこと、テニスの「良さ」や「楽しさ」を、より多くの方々に伝えたいと思い、毎日の仕事に励んでいます。

私は山崎社長に勧められJPTAの資格を取得しました。その時に言われた言葉を今でも覚えています。「この資格を生かすも殺すも自分次第」。会員になって、その言葉の意味がとてもよく分かりました。会員になっても「自分から行動しなければいけない」と良い意味でも悪い意味でも感じました。私がJPTAの会員になって良かった事は、色々な会員の方と知り合うことができ、人との繋がりが増えたことです。そしてその繋がりが自分を成長させてくれたと、今は強く感じています。

その最初が古川テニス企画の高橋真人プロとの出会いです。高橋プロには、山崎社長が高橋真人プロと出会った時と同じ様に、私をはじめコーチ会に参加させていただいた時から色々なことを教えていただきました。そして、その集まりの中で人との繋がりの大切さ、接し方など、テニスコート以外での大切なことを沢山学ばせていただきました。テニスコーチとしての繋がりの前に人と人の繋がりを大切にすることを教えていただいたような気がします。コーチ会では色々な先輩方と出会い、協会や会社の垣根をこえた大切なものを得ることができました。

こうしてコーチ会の良さを知った私は、古川テニス企画の同世代コーチや他の若手コーチと一緒に試行錯誤しながら「若手コーチ会」をつくらうと少しずつですが活動しています。「テニスを身近に感じて働く人達が自然と集ま



<プロフィール>

- ①テニス歴 20年
- ②コーチ歴 9年
- ③テニスライセンス
JPTA/USPTAプロフェッショナル3
- ④趣味 ぶらり旅
- ⑤レッスンのモットー
何年たっても「テニスが大好きです!」「テニスをして良かった」って言ってもらえるようなレッスンを心がけて頑張ります!
- ⑥好きな言葉 「夢が自分を成長させる」

り悩み事や相談ができる」そんな場所を作れたらと考えています。これを読んでいただいて同じように感じた方はぜひ、最初は2人でも3人でも始めてみてください。私は、テニスコーチとしての質の向上はとても大切ですが、まずは人としての質の向上をしていくことが、それ以上に大切なことなのではないかと考えます。テニス界を、もっともっと魅力のあるものにしていく為にも、まず周りのコーチとの繋がりを増やして、絆を深めていけたらもっと良いものができるのではないかと考えます。

しかしながら、なかなかコミュニケーションをとる場に足が向かない若いコーチが多く、毎日の仕事をこなすことで精一杯になるのが現状だと思いますので、ぜひ協会活動としてもそのような場所を沢山つくっていただけたらと思います。よろしくお願いたします。

最後に、今の私の「夢」は、いつか自分のテニスコートを持ち、お世話になった方々やテニスを通じて繋がることができた方々をお招きして恩返しをしたいということです。これからももっと沢山の方々とテニスを通じて繋がっていきたくと思っています。ん～、やっぱりテニスっていいですね～。テニス最高!



地区便り
[神奈川地区]



神奈川地区
地区長 大貫 弘二

協会会員のみなさん、こんにちは。この度、神奈川地区の地区長を務めさせていただくことになりました、OTSテニススクールの大貫弘二と申します。

神奈川地区におきましては、多くの会員の皆様がいる中で、実際の交流の機会と申しましてもなかなか仕事柄難しい事ですが、まず身近なところから気軽に参加ができ、意見交換やスキルアップ出来る場が作れないものか…と考え、月に1度の月例地区練習会と称して、各スクール所属の現役コーチを対象にダブルスの試合を企画致しました。

以前より、近隣のコーチと交流を図る目的で練習会を行っていたものですが、昨年末より日本プロテニス協会のご協力をいただき、神奈川地区全体としての開催枠に広げる事が出来ました。

月を追うごとに、各地域からの参加者が増えており、共にテニスをしながら出場コーチ同士の交流を図り、試合後の懇親会で更に親睦を深めています。普段ではなかなか他のスクールのコーチとテニスをしたり、話し合ったりできる機会がないため、とても新鮮かつ刺激を受けるひと時となっている様です。

今後もこの様に、気軽に参加ができ、色々なスクールのコーチとの交流を図りながら、少しでも神奈川地区を盛り上げて行ければと思っていますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

平成24年度
第1回 JPTA地区長会議の報告

地区会委員長 富岡 信也

日時：平成24年4月20日（金）13：00～17：00
会場：JPTA事務局 会議室
進行：委員長 富岡信也 副委員長 古川彰治
出席：佐藤雅規(北海道)、渋谷一義(東京)、大貫弘二(神奈川)、小川大輔(埼玉)、幹事代理出席、柴田優子(東海)、梶下欣昭(中国)、亀代大輔(四国・代理)、石津史(九州)
欠席：門脇章(東北)、安間保行(北信越)、冨塚拓彦(千葉)、林浩司(関西)

平成24年度地区長会議を開催いたしました。最初に平成24年度の予定事業についての報告と、各地区でのご協力をお願いをし、今後の活動について話し合いが行われました。

次にセミナーやワークショップの開催について、報告と課題点があげられ、今後の対策について話し合いが行われました。

ワークショップはJPTA準会員入会を目的としスタートした活動ですが、現在JPTA会員の参加も増加しています。中国地区からは、地区会と合同開催することにより、準会員の入会を促し、また会員の皆様にとっても新たな(再度)勉強の場となり、ポイント取得や会員

同士の親睦にもつながるとも意義のある開催となったという嬉しい報告もありました。セミナーについては、年代により要望が異なる為、それぞれに見合ったセミナーを開催してほしいとの要望や、地区での開催の予算への意見等もありました。

また、今後の活動として、『安全管理講習会』を各地域の地区会での開催と単独での開催(関東、関西)の二つの形態で実施していくこととなりました。

安全管理は、現場にとって大変重要であり、昨今では裁判になる程の大きな事故が増えている為、コーチ1人1人に安全管理に対する認識向上を踏まえた行動が求められる中で、改めて勉強が必要だと考えます。皆様にとって有用な勉強の場となるよう積極的に取り組んでいくこととなりました。

最後に今後の地区会について、地域活性化をテーマに意見交換をいたしました。活性化委員会の立ち上げや、新入会員増加のための活動方法、会員サービスの向上、地域の連携を構築するなど、活発な意見交換を行い、JPTA組織活性化には、やはり全国の組織形態に県別支部設置を目指していくことが必要ではないかと感じる、今後の活動に大変有意義な会議となりました。

2012年度 第1回 東海地区会・安全管理講習会 開催決定

皆様こんにちは。東海地区地区長の柴田優子です。今回の東海地区会では、「安全管理講習会」を実施することになりました。講習会開催にあたっては、当協会スクール共済制度で長年ご尽力頂いております、保険代理店(有)リックコミュニケーションズ代表取締役 荒井 永氏を講師としてお迎えします。

- ・「スマッシュ練習中、打ったボールが生徒さんの目にあたってしまった!」そんな不意の事態に、あなたはどうか対応しますか?
 - ・日頃行っているレッスンは生徒さんにとって本当に安全ですか?
 - ・節電、猛暑。皆様のスクールでは、熱中症対策は万全ですか?
- など、今日テニススクールが直面する安全管理における課題や、オンコート上での注意点等、翌日のレッスンからすぐに役立つような

お話を頂く予定です。また、今地区会も、皆様で交流を深め、話し合える貴重な場になれば、と思っております。ご多忙とは存じますが、是非ご出席頂きますようお願い申し上げます。

■ 開催日程 ■
日 時：2012年9月2日(日) 午前中(予定)
場 所：名古屋 Marriott アソシア 17F 会議室
ポイント：2P付与予定(地区会1P/安全管理講習会1P)

※東海地区エリアの皆様には、後日詳細・お申込のご案内をお送りさせていただきます。

資格認定講習会・プロテスト開催日程

	講習会 <small>UPは「既に会員の方」新規は「会員ではない方」が対象です。 新規&UPと同時開催の場合、UPは1日目のみとなります。</small>	締切日	プロテスト <small>1日目は筆記とグリップ、2日目はアナリシス、打球、 グループレッスン、プライベートレッスンになります。</small>	締切日
9月	[UP] 4(火) 関西 MTP登美丘(大阪)	8/15 (水)	23(日)・24(月) 関西 ノア 久宝寺(大阪)	8/23 (木)
	[新規&UP] 13(木)・14(金) 九州 グラスコート佐賀(佐賀)	8/23 (木)		
10月	[新規] 1(月)・2(火) 四国 徳島アリーナガーデン(徳島)	9/10 (月)	3(水)・4(木) 関東 ※1日目は協会事務局 TOPインドア亀戸(東京)	9/3 (月)
	[新規&UP] 29(月)・30(火) 北海道 ヴェルデテニスクラブ(北海道)	10/9 (火)	7(日)・8(月) 東海 ロングウッド長久手(愛知)	9/7 (金)
			31(水)・11/1(木) 北海道 ヴェルデテニスクラブ(北海道)	10/19 (金)
11月	[新規] 5(月)・6(火) 関東・東海 つま恋(静岡)	10/15 (月)	18(日)・19(月) 九州 北九州ウエスト(福岡)	10/19 (金)
			25(日)・26(月) 四国 徳島アリーナガーデン(徳島)	10/25 (木)
2013年 1月	[UP] 18(金) 関東 メガロス神奈川(神奈川)	12/26 (水)		
	[新規&UP] 30(水)・31(木) 関西 アオノリゾート(兵庫)	1/9 (水)		
2月			19(火)・20(水) 関東 Ken'sインドア千葉(千葉)	1/21 (月)

注1) 開催準備の都合で、締切を過ぎてからのお申込みについては御遠慮いただく場合がございます。締切日必着にてお申込下さいますようお願い致します。同様に、コート面数の都合上で締切までにお申込みいただいても受講・受験できない場合がございます。予めご了承下さいますようお願い致します。

注2) 原則として申込受付締切後のキャンセルは控えて頂きますが、止むを得ない事情によりキャンセルされる場合でも、開催日7日前を過ぎたキャンセルについては受講料のご返金はできませんので御注意ください。

プロテスト委員会

プロテスト(UPテスト) 資格昇級者

<p>日 時: 1月20日(金) 会 場: Ken'sインドアテニススクール(千葉) 受験者数(新規含む): 10名</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="border-bottom: 1px solid black;"> <th style="text-align: left;">会員番号</th> <th style="text-align: left;">氏 名</th> <th style="text-align: left;">資 格</th> <th style="text-align: left;">勤 務 先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3029</td> <td>富田 義則</td> <td>P2</td> <td>タムラクリエイト(株)</td> </tr> <tr> <td>3683</td> <td>小淵 智史</td> <td>P2</td> <td>メガロス網島インドアテニススクール</td> </tr> <tr> <td>3261</td> <td>齋藤 貴幸</td> <td>P3</td> <td>西鎌倉テニスクラブ</td> </tr> <tr> <td>3681</td> <td>森田 裕和</td> <td>P3</td> <td>(株)ツカダプランニング</td> </tr> </tbody> </table>	会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先	3029	富田 義則	P2	タムラクリエイト(株)	3683	小淵 智史	P2	メガロス網島インドアテニススクール	3261	齋藤 貴幸	P3	西鎌倉テニスクラブ	3681	森田 裕和	P3	(株)ツカダプランニング
会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先																		
3029	富田 義則	P2	タムラクリエイト(株)																		
3683	小淵 智史	P2	メガロス網島インドアテニススクール																		
3261	齋藤 貴幸	P3	西鎌倉テニスクラブ																		
3681	森田 裕和	P3	(株)ツカダプランニング																		

<p>日 時: 3月14日(水)・15日(木) 会 場: ビーンズドーム (千葉) 受験者数(新規含む): 7名</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="border-bottom: 1px solid black;"> <th style="text-align: left;">会員番号</th> <th style="text-align: left;">氏 名</th> <th style="text-align: left;">資 格</th> <th style="text-align: left;">勤 務 先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3687</td> <td>林 陽介</td> <td>P2</td> <td>ロングウッド藍住</td> </tr> </tbody> </table>	会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先	3687	林 陽介	P2	ロングウッド藍住
会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先						
3687	林 陽介	P2	ロングウッド藍住						

新事務局長就任のご挨拶

本年4月より、前任の中田氏から事務局長職を引き継ぎました関原 和喜です。

私は大学卒業以来、(株)SONYのミュージックエンタテインメント部門でアーティストの企画宣伝、プロモーションプラン立案実施、スポンサー営業等に30年間携わってまいりました。テニス業界とはかけ離れた業界からの転身で、且つ事務方という業務に今は、惑うことばかりの連続です。しかし、「テニスをより広げていく」、プロモーションしていくという部分では大局的には同じではないでしょうか？

この度、『品川・御殿山』の地にニューオフィスをかまえる事が出来、新しいスタッフも3名入りました。新生・公益社団法人日本プロテニス協会事務局のスタートです。

“きちんとした事務局”（申請、諸手続き、変更事項処理等のミスゼロ化）を運営ベースに“なんか最近テニスの話題が多いよね”を目指して事務局一同頑張っていきたいと存じます。

是非とも、会員の皆様のご意見をお寄せ下さいませ。宜しくお願いいたします。



事務局紹介

2011年3月より事務所を御殿山トラストタワーへ移転しオフィスも新しくなりました。お近くにお越しの際は是非、お立ち寄りください。また本年より2年間、JPTAが9月23日『テニスの日』担当事務局です。テニスの日のスペシャリストの金森さんがJPTA事務局にいらっしゃいます♪

今水 優子 2011.6～

手続きを通して皆様とお話出来る機会を大事にしたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

米津 瑠美 2012.5～

日々勉強中です。皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い致します。

神山 祐紀 2011.5～

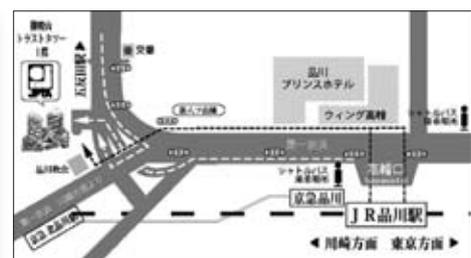
笑顔にあふれた事務局・協会を目指しています。繋がりを大切に、会員の皆様と一緒によりよい協会にしていけたらと思っております。

森 菜穂 2011.4～

講習会やプロテストなどに参加される方々からのやる気にパワーを頂いています。これからも宜しくお願い致します。

▼ 主な担当業務・お問い合わせ先

- 資格認定、プロテスト、資質向上、ワークショップ : 森・土谷
- コンベンション、広報関連、物販関連 : 神山・米津
- ジュニア育成関連 : 飯泉
- 経理関係 : 鈴木
- 安全管理関連、スクール共済、ポイント管理 : 今水



金森 綾子

ありがとう15周年。皆様のご協力に感謝しております。テニスの日をプロ協にご担当いただきます為、事務所のお仲間に入れていただいております。

テニスの日推進協議会
TEL) 03-5793-9116

鈴木 誠 2012.4～

より良い協会になるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

飯泉 洋子 2011.12～

この仕事を通して、多くの方々との出会いを大切にしたいです。

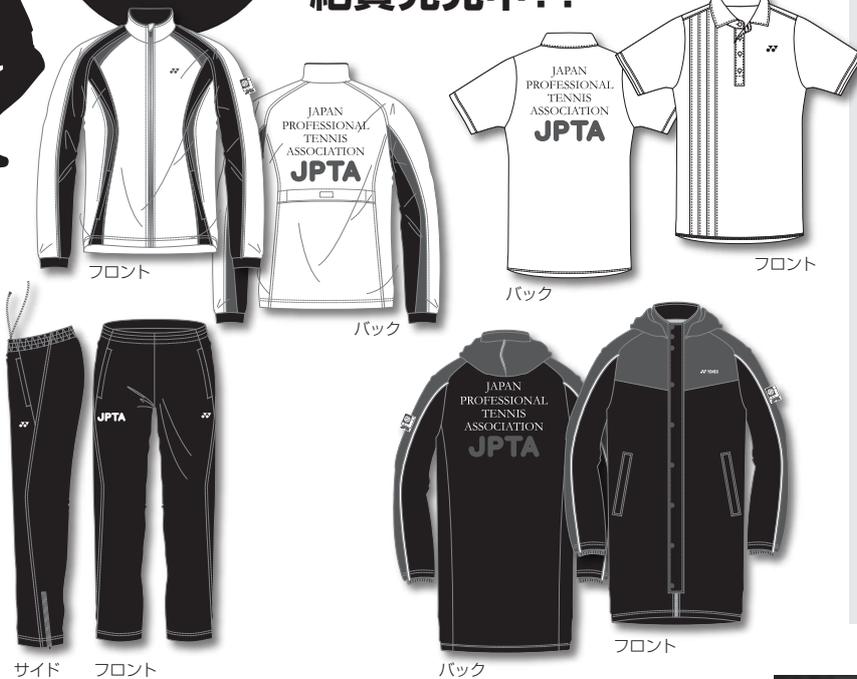
土谷 栄一郎 2012.5～

会員になって良かったと思って頂けるよう、力を尽くしたいと思います。

会員サービス委員会よりお知らせ

締め迫る!!
8月24日まで!!
[正会員様限定]

今年度も大好評 JPTAオリジナルモデル オフィシャルウェア 2012 絶賛発売中!!



JPTA限定カラー

※ポロシャツ:レッドのみ既存カラー
JPTAの正会員様のみご購入いただけます。
レディースモデルは、今回シルエットの綺麗なスリムロングタイプ!!
ポロシャツ追加注文急増中!3年ぶりのベンチコートも大人気です☆

お問い合わせ、追加注文などお気軽にJPTA事務局までご連絡ください。
カラー、サイズ、レディースモデルの詳細はホームページにてご覧いただけます!

JPTAでは、その他にも会員価格でのグッズの販売や下記会員サービスを行っています。

■ 販売 : 会員価格にてご購入いただけます。

- ・ JPTAロゴマーク入り ブリヂストンスポーツオフィシャルボール (毎月末日締切:2か月後納品/例:7月末締切→10月 納品)
- ・ JPTAのぼり旗 (3種: W600×H1800mm)
- ・ JPTA (USPTA) マーク入りの名刺
※保持資格により異なります。
※準会員様用名刺もございます。



JPTA/USPTA資格取得者



■ その他

- ・慶弔見舞金制度がございます。
※ 発生日より3ヵ月以内の申請が必要となります。
※ 詳しくはJPTAホームページ会員サイトをご覧ください。
- ・JPTAホームページ上に写真とプロフィールを公開することができます。
- ・JPTA主催のセミナー、イベント、コンベンション等に会員価格にて参加することができます。

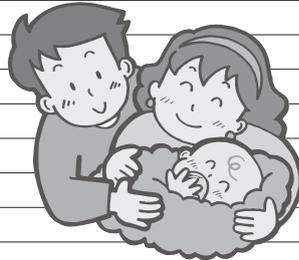
その他、テニスに関する保険や共済制度、JPTA オフィシャルスクールの名称使用など(要申請・認定)、多数ご用意しております。

詳しくは、JPTA事務局、もしくはJPTAホームページにてご確認ください。

おめでた

- ★ ご結婚 平成24年3月14日 一之瀬 泰之 会員
野中 麻由 さん
- ★ ご出産 平成24年 3月30日 松島 琢磨 会員
凜花(りんか)ちゃん
- 平成24年 4月 2日 駒村 あゆみ 会員
玲旺(れお)くん
- 平成24年 4月 5日 渡邊 知恵 会員
泰成(たいせい)くん
- 平成24年 5月 8日 塚本 達也 会員
虎汰朗(こたろう)くん
- 平成24年 6月20日 岩井 良太 会員
千夏(ちなつ)ちゃん
- 平成24年 6月28日 大脇 佑介 会員
葵(あおい)ちゃん

**事務局
だより**



おくやみ

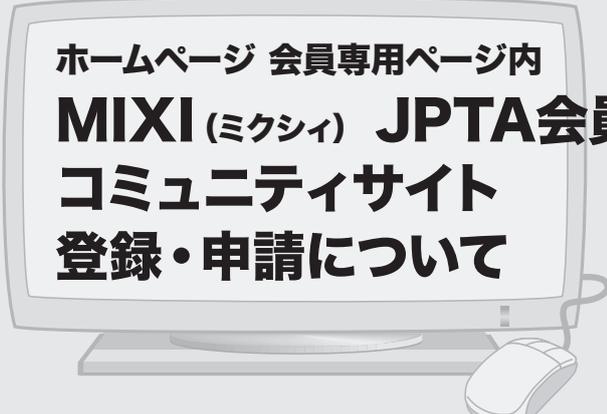
- 平成24年 3月 3日 桑野 功 会員
- 平成24年 3月12日 八島 正幸 会員 ご母堂様 八島 和子 さま
- 平成24年 3月19日 寒川 由起子 会員 ご母堂様 寒川 初代 さま

申請方法 JPTA会員サイトより正会員慶弔届 (PDF) をダウンロード後、JPTA事務所へ送付してください。
尚、慶弔金の申請は発生日から3か月以内となります。

新入会会員挨拶

※ 入会手續完了の新規会員様

氏名	資格	勤務先
下中 大彰	プロフェッショナル3	株式会社 ツカダプランニング
認定コーチになれた事を、自分自身の強みとするとともにさらなる高みへ努力をしています。		
谷口 峰人	プロフェッショナル3	Fukuoka Tennis Solution
今まで以上の指導力向上を目指します。		
林 陽介	プロフェッショナル3	インドアテニススクール ロングウッド藍住
この度、日本プロテニス協会の認定を受け新入会員となりました林と申します。徳島県のインドアテニススクールロングウッド藍住でコーチ業を行っています。テニス・コーチ歴とまだ未熟な部分が多々ありますが、講習会やセミナーなどに参加し、学ぶとともにJPTA会員の諸先輩方からご指導を受けたいと考えています。会員の皆様、よろしくお願いたします。		
永倉 直嗣	プロフェッショナル3	日本キリスト教団 岡山聖心協会
私はキリスト教の牧師です。テニスコーチが本業ではない私が、JPTA入会を決意したのはプロテニス講習会を受けて、牧師の「ミッション(使命)」と、プロテニスコーチの「ミッション」とが一致していること強く感じたからです。共通のミッション、それは、「人々に喜びを伝えること」です。現代の日本には、東日本大震災のような災害や、昨今の不安定な社会情勢によって、希望を失っている方がたくさんおられます。だからこそ、「生きていく喜び」を伝えることがなによりも大切だと思うのです。喜びを伝える方法は、いくらでもあります。テニスもそのひとつ。私は、聖書とラケットを使って、目の前にいる人に喜びを伝え、平和な心を生み出していき、そんな牧師になりたいのです。私のような小さな人間ひとりでは何もできませんが、JPTAに入会させて頂き、皆さんと力をあわせることで、日本に、そして世界に、いつの日か必ず、希望の火、平和の火を灯すことができると信じています。よろしくお願いたします。		
野村 結子	プロフェッショナル3	遊プラザテニススクール
大好きなテニスでたくさんの人を元気に、笑顔にしたい! そんな想いをもってコーチとなり、まだ半年。指導面では、まだまだ未熟ですが、生徒さん一人一人と笑顔の時間を共有できることを日々幸せに感じております。今回、資格取得を目指し、学んだことはコーチとしての大切な土台です。今後、この土台の上にたくさんの経験を積み重ね、コーチとして自身をもってテニスの楽しさをお伝えできるよう努力してまいります。		
高橋 葉月	インストラクター	南林間テニススクール
日本プロテニス協会の一員として貢献できるよう頑張りたいと考えております。よろしくお願いたします。		
財津 豪文	インストラクター	株式会社 正木企画 グリーンエイトテニススクール
この度、JPTAに入会でき、とても光栄に思っております。プロテニス講習会で学んだことやアドバイスを今後のレッスンに生かしていきたいと思っております。		
福井 康朗	プロフェッショナル3	株式会社 古川テニス企画
この度、日本プロテニス協会に入会いたしました福井と申します。受験をするチャンスをいただきありがとうございます。これからは、テニス界がもっと発展するように努力していきます。よろしくお願いたします。よろしくお願いたします。		
金山 正興	プロフェッショナル3	AM's テニスアカデミー
老若男女を問わず、テニスというスポーツを通して、生涯楽しく過ごせるように皆さんをサポートしたいと思います。		



ホームページ 会員専用ページ内 MIXI (ミクシィ) JPTA会員専用 コミュニティサイト 登録・申請について

ホームページ内に設けましたMIXIにご登録をご希望の方は、下記の手順にてご申請下さい。(こちらの登録、活用は任意です)

MIXIは身近な友達は勿論、普段は会えない友達や知り合いともコミュニケーションをとることができます。日記を書いたり、共通の趣味や好きな話題のコミュニティに参加して仲間を増やす事も、意見交換もすることが出来ます。

(今回設けましたJPTA会員専用コミュニティは、JPTA会員同士のコミュニケーションツールとなりますのでJPTA会員のみの参加となります)



すでにmixiの会員の方はそのままお入りください。まだ会員でない方はこちらまでご連絡ください。
kyokai@jpta.or.jp

会員専用サイト JPTA Members Onlyより入り、登録作業をしてください。(図参照)

MIXIに既に会員登録している方

- ① そのまま「入り口」から入る
- ② ログイン
- ③ 検索からJPTA と入力して検索
- ④ JPTA会員専用コミュニティ(会社・団体)が検索結果として表示
- ⑤ 「このコミュニティに参加」ボタンを押す
- ⑥ コメント欄に会員番号と氏名、コミュニティに参加希望と明記し、参加申請を送信
- ⑦ 協会事務局よりコミュニティの参加承認が返送

MIXIに会員登録をされていない方

- ① 協会事務局代表メールに(jpta-info@jpta.or.jp)へMIXIのコミュニティ参加希望と会員番号と氏名を明記の上、送信。
- ② 協会より、MIXI会員登録の招待状が届く・・・その後はMIXI画面の説明に従い、登録をしてください。
- ③ 登録後は、左記「MIXIに既に会員登録している方」の①～同じ工程にてお進み下さい。



JPTAホームページ 会員専用サイト

..... 求人広告掲載受付中

ホームページの会員専用サイトに求人広告を掲載することができます。ご希望の方は下記項目をメールにてお送りください。

また、年2回の発行となりますJPTANEWSの人材募集コーナー(有料)も併せてご利用ください。

ご不明な点がございましたら、JPTA事務局までご連絡ください。

求人広告掲載内容詳細

【求人広告掲載事項】 会員専用サイトに掲載される項目です。	【掲載期間】 1か月 掲載の延期または期間内の掲載取り下げの際はお申し出ください。掲載はご申請頂いた日から作業の都合上、3日～5日のお時間を要する場合がありますのでご了承願います。
・ 会社名(クラブ名)	【掲載料】 無料 (当金は無料で掲載となります)
・ 勤務地	
・ 職種	
・ 応募資格	
・ 待遇	
・ 問合せ先(担当者名含む)	

◀ 原稿送信・問合せ先 ▶ 広報委員会 事務局担当まで
e-mail : jpta-info@jpta.or.jp

メールの件名に「会員専用サイト求人掲載」とご入力ください。
尚、原稿はお送り頂く前に、ご一報を頂けると幸いです。宜しくお願い致します。

JPTA HOT NEWS 協会情報メール配信サービス

..... 登録受付中

出来るだけリアルタイムな情報を会員の皆様へお届けする、メール配信サービス(JPTA HOT NEWS)をご希望の方はJPTAのホームページの会員専用サイトより入り、メール配信サービス登録フォームからメールアドレスをご登録ください。メール配信の利用料は無料ですが、インターネットの利用に伴う通信料は自己負担となりますので、ご了承ください。(配信は不定期となります)

【送信者】

パソコンの場合 **【公益社団法人 日本プロテニス協会】**

携帯の場合 **[jpta-haishin@jpta.or.jp]**

携帯にjpta-haishin@jpta.or.jpを公益社団法人日本プロテニス協会という名前で登録して頂ければ、今後、送信者欄に【公益社団法人日本プロテニス協会】と表示されます。

【件名】

【 JPTA HOT NEWS 】 と表示されます。

ご利用上の注意点につきましては、JPTAホームページの会員専用サイトにてご確認ください。

【問い合わせ】

広報委員会 事務局担当まで

TEL : 03-5791-1965 FAX : 03-5791-1966

E-mail : jpta-haishin@jpta.or.jp

JPTA 公認企業・公認商品

会員は大いに利用し、生徒さん等関係者に薦めてください。

ラケット	Prince	グローブライド株式会社
ドリンク	ポカリスエット	大塚製薬株式会社
ウェア	YONEX	ヨネックス株式会社
ボール	BRIDGESTONE	ブリヂストンスポーツ株式会社
ストリングス	GOSEN	株式会社ゴーセン

JPTA 推薦企業

スポーツサーフェス株式会社 大塚ターフテック株式会社 タムラクリエイト株式会社

JPTA 賛助企業

JPTAは下記の企業の賛助を受けています。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	株式会社ダンロップスポーツ	株式会社ヤマハリゾートつま恋
東京ウェルネス株式会社	有限会社リックスコミュニケーションズ	株式会社ゴールドウイン
株式会社ナイキジャパン	日本プロテニスエンタープライズ株式会社	ミラクル株式会社
ミズノ株式会社		

編集後記

今号もさらに充実した内容でお届けできたことが、とても嬉しいです！

会員の皆様が本誌を楽しみにお読み頂きます様、編集一同、心を込めて作成しました。

ぜひご意見・ご感想をお寄せくださいね！

金丸 由紀

今回で2回目、まだまだ段取り等わからない事ばかりで、金丸さんや事務局の皆さんに頼りっきりですが、毎号前に進めるよう頑張ります！

辻野 隆三

初めて広報として携わった今回は、汗と涙と笑いありの制作期間となりましたが、皆様のご協力の下、委員会をはじめ、入社した米津と共に協力し無事皆様にお届けすることができとても嬉しく思います。今後は、さまざまな角度から求められる情報を、わかりやすく、また楽しく、皆様にお届けできればと思います。今後ともよろしく願いいたします。

ご意見・ご感想などお待ちしております！！

神山 祐紀

初めての大きな仕事がJPTA NEWSの制作で、勝手が分からずあたふたと時間だけが過ぎていく日々が続き、本当に汗と涙!?と笑いあいの制作期間でした。今回の反省を踏まえ次号以降はさらにお楽しみいただけるような物になるように頑張ります。会員の皆様や各担当委員長の皆様、今後とも暖かく見守りいただき、ご協力をお願いいたします。

米津 瑠美